

# 岐阜の宝もの

自然・歴史・人が織りなす、じまんの原石

Gifu  
Brand New  
Treasure

Vol.4

# 木の国から水の国へ。 清流に生かされ、 清流で繋がる、ぎぎふ。



岐阜県知事

古田 肇

岐阜県では、平成19年度から昨年度までの6年間、全国に誇れる新たな地域資源（じまん）を県民全体で掘り起こし、それらを磨き上げて、県内外の皆さんに情報発信することにより観光誘客を促進する「飛騨・美濃・じまん運動」岐阜の宝もの認定プロジェクト」を展開してきました。

このプロジェクトでは、県内外から寄せられた1,811件の「じまん」の中から、今後の観光振興に資する「じまんの原石」を56件選定。さらにその中から、今後の魅力向上の取り組みによつては全国に通用する観光資源になることが期待されるものを「岐阜の宝もの」として5件、これに次ぐ「明日の宝もの」として11件認定してきました。

こうした宝もの等について、県ではガイド人材の養成や、

新しい体験プログラムの造成、特産品の開発、旅行商品の造成など地域が主体となった魅力向上（ブラッシュアップ）に向けた取り組みを支援してまいりました。その結果、地域特性を活かした魅力的な観光地づくりが県内各地で進展し、「岐阜の宝もの」を中心にメディアへの露出が増加するとともに、観光客も増加するなどの成果も現れてきています。

今後は次のステップとして「岐阜の宝もの」をはじめとする新たな観光資源や長良川鵜飼、飛騨高山、下呂温泉、世界遺産白川郷など様々な有名観光地を広くつなぎ合わせ、県内各地の周遊性を高めることにより、滞在時間増加による観光消費の拡大を促進し、観光産業を岐阜県の基幹産業としていくための取り組みを本格展開してまいりたいと考えております。

この冊子には清流をはじめとした美しい自然や歴史、伝統文化、食など岐阜県の魅力があふれています。そして何より、岐阜県にはどの地域にも負けない県民の「おもてなしの心」があります。私たちが心をこめて守り、つくりだしてきた数々の「じまん」をめぐる「清流の国ぎぎふ」の旅を存分に楽しんでください。

## 飛騨・美濃・じまん運動

「飛騨・美濃・じまん運動」とは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう」ふるさとの「じまん」を合い言葉に、県民一人一人が身近にある様々な地域資源（じまん）を掘り起こし、磨きをかけて情報発信していく取り組みです。こうした取り組みを通じて、観光産業を基幹産業に発展させ、飛騨・美濃の特性を活かした誇りの持てるふるさとづくりを進めています。

平成19年7月に制定された「みんなであつくり観光王国飛騨・美濃条例」で、県民みんなで取り組むことが規定されました。

## 岐阜の宝もの認定プロジェクト

飛騨・美濃・じまん運動を具体的に推進するため、世界文化遺産の白川郷、ミシュランの三ツ星に輝いた飛騨高山、長良川鵜飼などの全国的な観光地に続くような新たな「じまん」を県民全体で見つけたし、創りだし、県内外の皆さんに知ってもらい、岐阜県へお越しいただくための取り組みが「岐阜の宝もの認定プロジェクト」です。

平成19年11月「あなたの思うじまんなは何ですか?」。そんな問いかけによる公募からプロジェクトはスタートしました。この中から今後の岐阜県の観光を振興すると期待される「岐阜の宝もの・明日の宝もの・じまんの原石」が誕生しています。

# 岐阜の宝もの

平成24年度認定

02 中山道ぎふ17宿

平成20年度認定

08 小坂の滝めぐり

平成21年度認定

12 乗鞍山麓五色ヶ原の森

平成21年度認定

16 東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋

平成23年度認定

20 天生県立自然公園と三湿原回廊

# 明日の宝もの

平成24年度認定

24 大垣水景物語

平成24年度認定

28 岐阜ローカル鉄道の旅

平成24年度認定

32 中津川の栗きんとん巡り

平成24年度認定

36 種蔵「棚田と板倉の風景」と山里文化

平成24年度認定

38 美濃竹鼻まつり・ふじまつり

平成20年度認定

40 川原町界限

平成20年度認定

42 郡上鮎

平成20年度認定

44 八百津のおやつ

平成21年度認定

46 美濃白川 四季彩街道

平成23年度認定

48 岩村城跡と岩村城下町

平成23年度認定

50 じまんの原石ダイジェスト

平成23年度認定

53 圏域マップ



【じまんの原石ロゴマーク】

題字は第2回岐阜フラッグアート展で日比野亮彦賞を受賞した各務原市在住の長瀬ひとみさんの作品、デザインは岐阜の宝もの認定専門委員の甲賀雅章さんです。



## 岐阜の宝もの

今後、全国に通用する観光資源となるもの。

Gifu Brand New Treasure

## 明日の宝もの

Asa no Takaramono

今後の取り組みによっては「岐阜の宝もの」になると期待されるもの。

## じまんの原石

Jimano no genseki

今後、岐阜県の観光振興につながるもの。



## 岐阜の宝もの(じまんの原石)認定基準

- ① 今までにない新しいタイプの観光資源としての魅力がある。
- ② 長期間にわたり魅力を発することができると持続性を有し、岐阜県ならではのオリジナリティーがある。
- ③ リピーター確保につながる「もっと知りたい、もっと体験したい」と思わせる内容である。
- ④ 他の観光資源との連携の可能性がある。
- ⑤ 現地スタッフや関係者による継続的な受入体制ややる気がある。
- ⑥ 交通アクセスが確保できる。

# 岐阜の宝もの Vol.4

岐阜の宝もの Vol.4  
2013年12月発行

【編集・発行】  
岐阜県  
〒500-8570  
岐阜県岐阜市藪田南2-1-1岐阜県庁  
TEL 058-272-1111(代)

【平成24年度認定】

な か せ ん ど う

# 中山道ぎいふ17宿

美濃を横断する、いにしへの旅路。  
時を越えて人と町を結ぶ中山道

Gifu  
Brand New  
Treasure



江戸時代に整備された五街道のひとつ、中山道。69の宿場を結ぶこの道は、岐阜県を横断し、県内17の宿場がそれぞれに独自の街道文化を色濃く育んできた。そして今、昔から守ってきた文化を未来へと繋ぐために、各宿場をあげて、魅力の発掘、新たな魅力づくりに情熱を注いでいる。そんな中、2012年に中山道が「岐阜の宝もの」に認定された。これを機に、地域ごとで活性化に取り組みだけでなく、宿場同士が連携した街道づくりへと変化。中山道は、歴史文化あふれる観光資源として、さらに輝いていくだろう。

- 中津川市
- 馬籠宿
- 落合宿
- 中津川宿
- 恵那市
- 大井宿
- 瑞浪市
- 大湫宿
- 細久手宿
- 御嵩町
- 御嶽宿
- 伏見宿
- 可児市
- 美濃加茂市
- 太田宿
- 坂祝町
- 各務原市
- 鵜沼宿
- 岐阜市
- 加納宿
- 河渡宿
- 瑞穂市
- 美江寺宿
- 神戸町
- 大垣市
- 赤坂宿
- 垂井町
- 垂井宿
- 関ヶ原町
- 関ヶ原宿
- 今須宿

琵琶峠には昔の面影を残す約730メートルも続く石畳がある(大湫宿)

## 旅人の足跡を辿り、街道ロマンを綴る

江戸の日本橋から京都三条大橋までを結ぶ重要な街道として、1602年に開設された中山道。道中、旅人が疲れを癒すために設けられた宿場町は69箇所を数え、そのうちの4分の1にあたる17の宿場が岐阜県内にある。宿場町ごとに息づく独自の文化を垣間見ながら、先人の歩んだ旅路に思いを馳せることができる。

2012年度には県内の中山道126・5kmと17の宿場を「中山道ぎふ17宿」として、岐阜の宝ものに認定。これをきっかけに、個々に文化をブラッシュアップ

プしてきた宿場町が互いに刺激し合いながら、ともに中山道を盛り上げようとする意識が高くなった。ボランティア活動を学んだり、お互いのイベントに参加することで、宿場間の交流を通じて「他の地域の文化を知ることの重要性を改めて実感した」「まちづくりを見直すことができた」という声も聞かれるように。

近年ではウォーキングの人氣も高まり、各宿場でも地元住民を中心に、ボランティアガイドの育成や文化イベントの開催、特産品の開発など、地域性を生かした取り組みが進められている。

2013年3月には、17宿をつなぐ初のイベント

「中山道ぎふ17宿はじめの一歩ウォーク」を開催。その中で、中山道周辺の観光スポットや見どころを詳しく記した『歩き旅ガイドブック』を発行した。この取組成果をさらにブラッシュアップし、2013年10月～11月には、「中山道ぎふ17宿歩き旅2013」を開催した。

「点在する宿場」が「街道という線」でつながった新たな岐阜の中山道。観光資源として無限の可能性が広がるとともに、かつてのように多くの人・モノ・情報が集い、魅力ある文化が生まれる、岐阜の大きな宝となっていくだろう。

## 馬籠宿

●中津川市

文豪・島崎藤村の『夜明け前』の舞台として知られる馬籠宿。山の斜面に沿う急な坂が、旅の険しさを想像させる。石畳の街道沿いを歩けば、風情ある旅館や土産物屋に歴史を感じ、坂から見下ろす雄大な山々の遠景にも、また旅情を感じる。



Magome

## 尾根に開けた山中の宿場町を 住民が磨く「馬籠ルネッサンス」

2005年に長野県から岐阜県へと越県合併後、地元住民が中心となって宿場の魅力を再発見する「馬籠ルネッサンス実行委員会」を発足させ、観光客と住民が共に楽しめるイベントを企画。初夏には「ホテルまつり」、秋は皇女和宮降嫁行列を再現した「馬籠宿場まつり」や、夜のそぞろ歩きを楽しむ「馬籠宿夜の郷愁(ノスタルジー)」、冬には「水雪の灯祭り」など、季節ごとにイベントやウォーキングコース

をつくり、宿場町の新たな楽しみ方を発信している。



馬籠観光協会  
中津川市馬籠4300-1  
☎ 0573-69-2336  
http://www.kiso-magome.com/

JR「中津川駅」から北恵那バス「馬籠」下車すぐ  
中央自動車道「中津川IC」から車で約30分



左：中央／『歩き旅ガイドブック～島崎藤村「夜明け前」の地を歩く～』  
右／『歩き旅ガイドブック～壬申から戦国へ日本の歴史探訪ウォーク～』  
2013年秋には、この他10コースのガイドブックも完成。



森家の資料などを展示する  
脇本陣跡

奈良・平安の時代には東海道が通る交通の要衝であった中津川は、江戸時代中山道の宿場町となった後も人と物が集まる商人の町として賑わい、現在は老舗和菓子屋や造り酒屋など

# 中津川宿

●中津川市



だが並ぶ商店街が形成されている。近年は、古く開かれていた「六斎市」を200年ぶりに復活させ、毎月第1日に開催。さらに商店街のおかみさんなどによる「中山道こまの会」も結成され、女性目線の宿場づくりに取り組む。

京・江戸の双方から美味が集まる中津川宿は、美濃有数の菓子の町でもある。駅前「にぎわい特産館」では、皇女和宮が江戸への道に復活させ、毎月第1日（和宮誕生日）と10月29日（和宮中津川宿泊日）だけ数量限定で販売。市内の料理旅館で味わえる「和宮姫御膳」とも人気を集めている。



うだつのある旧庄屋敷(曾我邸)



加賀・前田家寄贈と伝わる本陣の大門



落合の石畳

# 落合宿

●中津川市

美濃国始まりの町・落合宿。馬籠宿から木立の間を縫って十曲峠へと下る「落合の石畳」は、昔の旅を満喫できる絶好のスポットだ。落合宿は過去に二度の大火に見舞われ、多くが類焼したが、火事見舞いとして加賀藩から寄贈されたと言われる大門をはじめ、落合

信州と美濃をつなぐ旅路を歩き、中山道ならではの趣を満喫



宿本陣が往時の姿をどめている。秋の中山道落合宿まつりでは、普段宿場町で展示している容積約1000リットルの「助け合い大釜」で作るキノコ汁が振る舞われ、おもてなしのシンボルとなっている。



Okute



Ooi



Nakatsugawa



Ochiai

旅籠が多く、大勢の泊り客で賑わったといわれるこの宿場には、「中山道のれんコンテス」老舗旅館が発案したマクロビオティック会席など新しい宿場の



本陣門や当時の商家などの古い町屋建築6カ所の桁形が残っている。明治天皇が宿泊した当時のまま奥座敷を保存した「明治天皇行在所」は、地元住民が手入れをし、一般開放している観光拠点。住民と観光客の交流の場として活用されている。



老舗旅館「いち川」のマクロビオティック会席



魅力も発信中。2013年秋には、皇女和宮が降嫁の際に通った街道である縁から、御嶽宿名物「みたけ華ずし」を作る体験イベントを実施。おもてなしを合い言葉に、今後もいろいろな企画が予定されている。

●恵那市  
新味あふれるアイデアで温故知新のおもてなしを創出

# 大井宿

●恵那市

海抜510メートルの高地に設けられた大湫宿は、東に十三峠、西に琵琶峠を控えていたこともあり、当時は大変な賑わいを見せていた。文政期の面影を残す脇本陣をはじめ、ほとんどの建物が現在も「住まい」として現役。街道沿いに建つ4軒が、国登録有形文化財に指定されている。民家の軒先には、旅籠だった当時の屋号を掲げる粋な演出も。さらにあちこちに

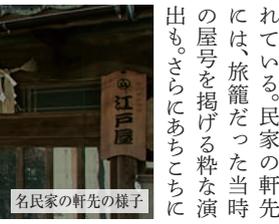


上/部屋数19、畳数121、別棟4という広さを誇っていた脇本陣。下/休憩所として開放されている面高家。中ではおみやげも販売。

「ありのまま」の宿場の姿

# 大湫宿

●瑞浪市



名民家の軒先の様子

ある板塀やなまこ壁、犬矢来や窓格子などが住時を偲ばせる。



瑞浪市商工課  
瑞浪市上平町1-1  
☎ 0572-68-2111  
http://www.city.mizunami.gifu.jp/sightseeing/  
JR「釜戸駅」からタクシーで約10分  
中央自動車道「瑞浪IC」から車で約20分

（一社）恵那市観光協会  
恵那市大井町286-25  
☎ 0573-25-4058  
http://www.kankou-ena.jp/  
JR「恵那駅」からすぐ  
中央自動車道「恵那IC」から車で約5分

## 山あいの静かな宿場に 今も現役の旅籠が佇む

東の大湫宿、西の御嶽宿の間が4里半と長く、両宿の人馬が難渋したため、仮宿として設けられたのがはじまりの細久手宿。街道沿いには、当時の旅籠が一軒残っている。国登録有形文化財「大黒屋」



秋葉坂の三尊石宿

## 細久手宿

●瑞浪市

だ。今も現役の料理旅館を営みながら、1階をギャラリーとして一般開放し、当時の暮らしを伝えていく。また、旅人が道中の安全を祈願したと言われている三尊石宿や、春にはカキツバタが咲き誇る弁財天の池も見どころ。2010年に「中山道観光ボランティアの会」が発足してからは、ここを訪れる人も年々増加。毎年秋には、細久手宿と御嶽宿の間を歩く「中山道往来」というイベントも行われている。ありのままの宿場の姿とその風情を感じながら、旅人気分になりたい場所だ。



瑞浪市商工課  
瑞浪市上平町1-1  
☎0572-68-2111  
<http://www.city.mizunami.gifu.jp/sightseeing/>  
JR[釜戸駅]からタクシーで約10分  
中央自動車道[瑞浪IC]から車で約20分

## 御嶽宿

●御嵩町

1602年、徳川家康が中山道の宿場として初めて「伝馬掟朱印状」を下付したと言われている御嶽宿。街道沿いには本陣跡の野呂家やその分家である商

## 来訪者と住民との交流が宿場の活気につながる

家竹屋など、往時の繁栄ぶりを伝える建物が残る。現在は地域住民を中心に宿場の保存やまちづくりが進む。宿場内の観光交流施設では定期的なイベントの開催や、「みたけ華ずし」など、特産品開発も活発。2012年には「みたけ華ずしの会」が、産業観光まちづくり大賞特別賞を受賞した。



明治10(1877)年建築の「商家竹屋」(町指定重要文化財)



みたけ華ずし



さんさん広場



御嵩町まちづくり課  
御嵩町御嵩1239番地1  
☎0574-67-2111  
<http://www.town.mitake.gifu.jp/index.cfm>

名鉄広見線「御嵩駅」からすぐ  
東海環状自動車道「可児御嵩IC」から車で約10分



安政6(1859)年に建てられた「尾州家定本陣大黒屋」。今も当時の建物のまま、料理旅館として営んでいる



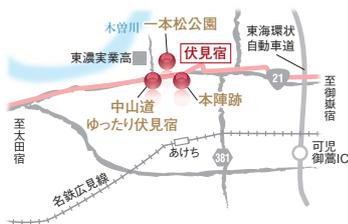
## 伏見宿

●御嵩町

伏見宿が置かれたのは、隣の御嶽宿の約90年後。木曾川の太田の渡しを控えた宿として賑わった。近くには川船の発着場「新村湊」があり、物資や年貢米の運搬拠点としても利用されていた。このあたりは陸運と水運が交わる結節点として発展した地でもあるのだ。

そんな伏見宿に1824年、珍獣「駱駝」がやってきた。幕府献上品としてオランダ商人によって輸入されたが、幕府側の辞退により興行師の手に渡り、各地を回っていた駱駝が、伏見宿に3日間ほど滞在したという記録が残っており、伏見宿のシンボルの存在になっている。

## 木曾川河畔、新村湊の水運と中山道の陸運が交わる場所



御嵩町まちづくり課  
御嵩町御嵩1239番地1  
☎0574-67-2111  
<http://www.town.mitake.gifu.jp/index.cfm>  
名鉄広見線「御嵩駅」から徒歩約10分  
東海環状自動車道「可児御嵩IC」から車で約5分



一本松公園



Fushimi



Mitake



Hosokute



Ota



旧太田脇本陣林家住宅(国重要文化財)



おん祭MINOKAMO 秋の陣

中山道三大難所として知られる太田の渡しを有し、交通の要所として栄えた太田宿。旅籠の旧小松屋や趣のある酒蔵、脇本陣林家など、街道沿いには当時を偲ばせる建築物が並ぶ。また、槍ヶ岳の開祖・播磨上人の墓や風刺漫画の創始者・岡本一平が晩年の復元など、多彩な分野の偉人・文化人の足跡を感じることができる。

## 太田宿

歴史風情を守りつつ  
市民主導の多彩な企画で交流



太田宿中山道会館  
美濃加茂市太田本町3-3-31  
☎0574-23-2200  
<http://kaikan.ootajuku.net/>

JR「美濃太田駅」から徒歩約20分  
東海環状自動車道「美濃加茂IC」から車で約5分





【平成20年度認定】

# 小坂の滝めぐり

お

さ

か

「下呂市」

2008年、下呂市小坂町の「小坂の滝めぐり」は

「岐阜の宝もの」第一号に認定された。

霊峰御嶽山の脈動が生み出した千姿万態の滝を訪れる滝めぐり。

しかし、訪れる人を魅了するのはその美しさだけにとどまらない。

この土地に息づく文化や人々の温かな営みを伝えたいという町民の思いが、この宝ものを、さらに魅力と誇りあふれるものへとブラッシュアップさせ、

どんどん小坂ファンを増やしている。



**秘境に隠された幻の滝が  
類なき感動を与えてくれる**

御嶽山の裾野に位置し、噴火によって形成された落差5メートル以上の滝が、数多く点在する下呂市小坂町。1981年から、前人未踏の地に至るまで調査した結果、216カ所もの滝が見つかった。その姿はまさに千姿万態。落差63メートルもある「根尾の滝」、天を舞う龍のような柱状節理の石橋があ

る「龍門の滝」、滝壺だけが残る「滝の無い滝壺」など、他では見られない珍しい滝と出会うことができる。その姿を多くの人に伝えたいとNPO法人飛騨小坂200滝がコースを整備し、ガイドツアーを実施。初級から上級まで全58カ所の滝が見られる13コースが設定され、滝めぐりを楽しむことができる。これらの滝のほとんどは国有林の中にあり、中には入山が困難な難所も多い。そのため、「岐阜の宝もの」

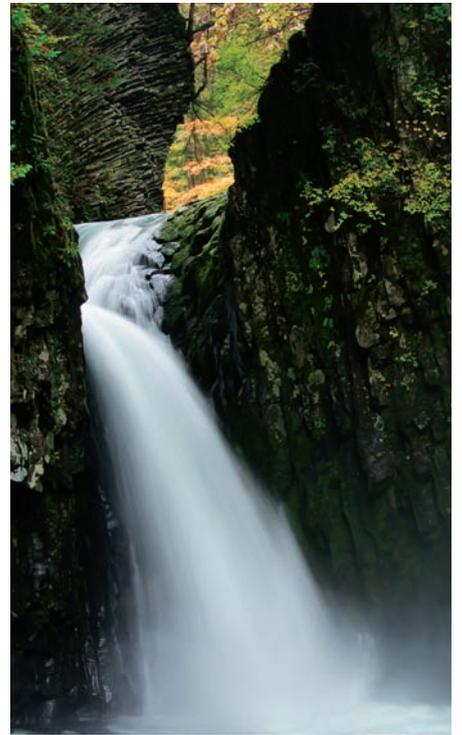


コバルトブルーに輝く濁河川中流にある「蒼滝」

地元の人々が愛情をもつて伝える  
ここでしか味わえない景色や暮らし。  
誇るべき宝ものから生まれた「小坂スタイル」



上から何段も続く「飛泉の滝」



柱状節理の間をくの字に流れる「からたに滝」

に認定された後、観光客をガイドするNPO会員を増員し、今では総勢100名以上となった。その内訳は地元住民が7割を占め、コース整備やイベント運営などを積極的にやっている。大自然の息吹に心揺さぶられる感動は、滝を愛し、この美しさを共有したいと願う有志によって支えられているのだ。

### 滝も楽しみ方も多種多様 新たなツアーが次々登場

四季によって刻々と姿を変える風景を楽しめるよう、多彩なツアーが年間を通じて企画されている。

2012年からは、全身で清流を感じながら大滝を目指して谷を進む「小坂の沢登」がスタート。環境に負荷をかけない日本古来の登山手

法を小坂の秘境で楽しむ、夏ならではのアクティビティだ。

冬は深雪の山中に行く「冬の滝めぐり」を開催。自分の足に合わせて輪かんじきを手作りし、それを履いて青く凍てつく滝を目指す。この季節だけの楽しみ方だ。

春から秋は、ピクニック気分で初級コースを散策する「覚明トレイルツアー」がおすすめ。巖立がんたての上を登り、自然の中で地元の銘菓とともにお抹茶を味わう野点が好評だ。

アイディアにあふれたガイドツアーは、初心者には気軽に滝めぐりを体験できる絶好の機会であり、リピーターにとっては、何度訪れても多彩な目線で新たな魅力を発見できると人気を博している。



落差23mの材木滝。写真右の茶褐色の部分は温泉水。

## ●NPO法人 飛驒小坂200滝

常時15〜20名のガイドを有し、入山許可が必要な国有林内もガイドが行すれば申請不要。ガイド料は初級コース1万円〜(ガイド1名につき10名まで対応)。中級コース6千円〜、上級コース7千円〜(ガイド1名につき5名まで対応)

### 主なコース

#### ●小坂の巖立ピクニック

〜覚明トレイルツアー〜

【開催日】 滝開き〜11月末までの  
土・日・祝日

※それ以外は要問い合わせ。

【催行人数】 1〜10名

※小学生以下は保護者同伴

【料金】 ショートコース(10〜12時)

大 人 2千円

小・中学生 5百円

ロングコース(10〜14時)

大 人 3千円

小・中学生 5百円

※ロングコースのみオリジナル弁当の予約可

(お茶付千円)

【申込】

前日16時までに要予約。定員になり次第締切。

インターネットは3日前まで予約可。

#### ●小坂の沢登

〜大人の冒険の夏!〜

【開催日】 7〜8月の指定日

【催行人数】 10名(最少催行人数4名)

※中学生以上の健康な方のみ

【料金】

7千円

(ガイド代・保険代・靴・ウェットスリッパなどの装備レンタル代を含む)

【申込】

10日前までに要申込。定員になり次第締切。

インターネット予約可。

## 地元住民一丸で魅力発信 進化を続ける「小坂スタイル」

下呂市小坂町では216カ所の滝めぐりとともに、古くから地元で伝わる技や暮らしの知恵、郷土料理などを広く情報発信していく活動を



上/「小坂の沢登」では、こんな淵を泳いでいくことも…。  
左/手作りの輪かんじきを履いて楽しむ冬の滝めぐり。



「小坂スタイル」と名付け、取り組んでいる。その中では、地元住民が「小坂の達人」として、自らの特技を通して小坂に根付く文化を紹介している。達人が教えるのは、自然の恵みをおいしく食べる方法や代々伝承してきた昔話など、日々の暮らしで培われたものだ。活動を続けるうちに達人も徐々に増え、滝を訪れる観光客に多彩な体験プログラムを提供し、小坂ならではの魅力を伝えていく。このような試みは、時に人気の商品を生み、時に町をあげてのイベントとなつていった。

現在の養殖漁業協同組合と協力し、小坂の清流で育ったイワナやニジマスを飛騨醤油で味付けし、燻製にした「小坂スモーク」は、2011年に岐阜県産品の看板商品として「飛騨・美濃すぐれもの」に選ばれた。また2013年3月には、飛騨小坂温泉郷に湧く炭酸泉をもっと知ってもらおうと、「第一回飛騨小坂炭酸泉まつり」を開催。湯めぐりスタンプラリーや、炭酸泉で作るクリームソーダや、炭酸泉で作るクリームソーダな湯豆腐をはじめとした炭酸泉料理を楽しんでもらった。滝めぐりとともに、地元住民が発信する新たな魅力が小坂ファンを魅了し続ける。



柱状節理の橋の下を滝がくぐり抜ける「龍門の滝」



右/NPO 法人飛騨小坂200 滝の理事長 桂川淳平さんは「自然の達人」。  
左/地元の昔話を語る「文化の達人」。



### ● 神秘的な冬の滝めぐり

【開催日】 1月下旬～2月下旬の指定日

※冬季は他のコースの案内や開催日以外のガイドは不可。  
「冬の滝ハイキング」(入門)は常時実施。



### ● 小坂の見どころ

#### ● 飛騨小坂温泉郷

御嶽山麓の湯屋温泉と下島温泉、6合目にある濁河温泉を総称して飛騨小坂温泉郷という。湯屋温泉は、日本屈指の炭酸含有量を誇る。



ひめしゃがの湯の飲泉

#### ● 小坂スモーク

小坂の特長である森と清水を掛け合わせて誕生した「小坂スモーク」。生育環境も飼料も調味料も安心・安全にこだわっている。



澄池は秋が近づく頃に、水が干上がり、池の中を歩くことができる。



岐阜の宝もの

【平成21年度認定】

# 乗鞍山麓 五色ヶ原の森

「高山市」



Gifu  
Brand New  
Treasure

訪れた者を  
時に力強く、時に優しく、  
抱きとめてくれる  
自然の懐

飛騨山脈（北アルプス）の南部に位置し、

日本百名山に選定された乗鞍岳。

その正体は大規模な成層火山。

裾野が広いことが特徴で、

五色ヶ原の森は、まさにその中に広がっている。

約3千ヘクタールの

広大な森の中に一歩、足を踏み入れた時から、

希少な花木や生物が、

静かに水をたたえる池が、

力強く流れ落ちる滝が、

「純然たる自然とは、どんな姿なのか」を教えてくれる。



秋になると水がほとんどなくなり、さまざまな姿を見せる雄池



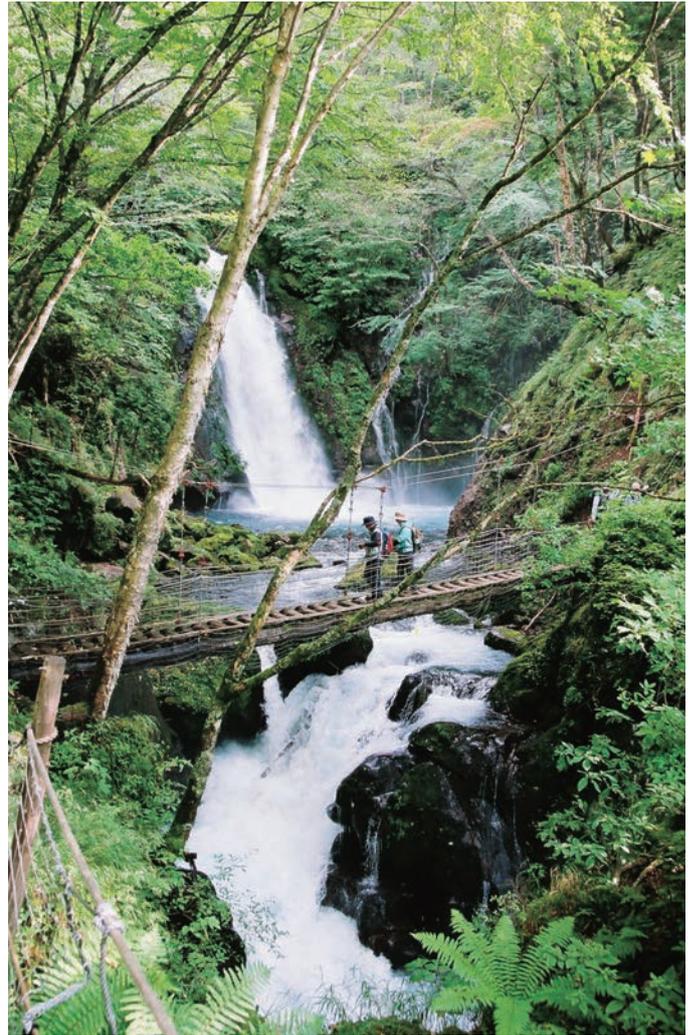
カモシカコースにある  
「青垂の滝(雄滝)」。落差 94 m。

秘境の地は、一步進むごとに、  
生命の力を分けてくれる…

乗鞍山麓五色ヶ原の森は、ほぼ全域が中部山岳国立公園内に位置しており、針葉樹と広葉樹が混在する雄大な原生林。溪谷林や湿地植生など、ほかでは見られない希少な生命の循環が営まれている。

五色ヶ原の森を巡るコースは「シラピソコース」「カモシカコース」。同じ乗鞍山麓とはいえ、この2つは全く違った表情を見せる。

シラピソコースでは、乗鞍岳西側の中腹を巡る。標高1410メートルの出会い小屋を出発し、1640メートルの岩井谷林道のシラベ沢口まで登り、起点まで戻ってくるコースだ。このコースは、比較的緩やかな斜面に多数の池や滝があり、老若男女を問わず安心してトレッキングが楽しめる。クライマックスは、力強い「横手滝」と優美な「布引滝」。「布引滝」は糸が流れるような繊細さと壮大さで、その美しさは言葉が失うほどだ。2010年からはツアー客を対象に、コースの一部を回るシヨートコース(4時間)が加わった。見所が凝縮されているので、開始当



はしごを降りると「横手滝」が見られる。つり橋を渡ったあとは、いよいよクライマックスへ。

初から大変人気となっている。

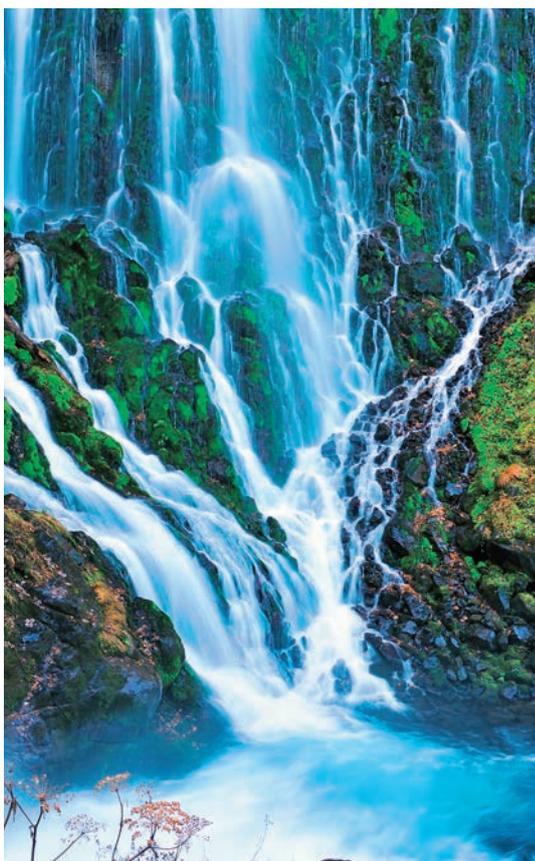
カモシカコースは、足場の悪い路面や急斜面を横切るため、少し上級者向け。標高1360メートルの五色ヶ原ツアーセンターを起点に、途中標高1620メートルの最高点を越えるアップダウンを繰り返すコースだ。火山帯らしく、溶岩が固まった大きな岩塊や岩壁、上部の急崖から風化・浸食によって落ちてきた礫が堆積した「崖錐」と呼ばれる地形を見ながら歩く。「久手御越滝」「池之俣御輿滝」「青垂の滝」などのダイナミックな滝がいくつもあり、

雄々しさを感じさせるコースだ。

川のせせらぎ・木々の香り・壮大な滝の轟音と水しぶき・地面を踏む足音など、常に五感が研ぎ澄まされる森の中。「尾根の向こうにはどんな景色があるのだろう」。そんなワクワクがずっと続くのだ。自身が大自然の懐に抱かれる感覚に、五色ヶ原の森で出逢ってほしい。

「エコツーリズム大賞」で  
優秀賞を受賞

五色ヶ原の森の自然を楽しむためには、ツアーセンターに事前に



未踏の場所だからこそ、  
この美しさが育まれる。



シラピソコースのクライマックスとなる「布引滝」は落差25m。横幅が広く、実物は想像以上。



カモシカコースの「久手御越滝」。落差58 m。



カモシカコースの「池之俣御輿滝」。落差52 m。

必ず申請を出し、ガイドの案内に従って入山する必要があります。自然に負担をかけないように、入山は年間7500名まで、1コース1日150名までに制限。また1グループは最大10名、グループ毎にガイド1名が同行する。整備された登山道や休憩所以外への立ち入りは禁止。希少な自然を守り、そして育んでいくために厳格なルールがあるのだ。

コースは、山を愛する地元の林業家たちが「自然を壊さず、自然に溶け込む」ように造った登山道を行く。五色ヶ原の森の登山道開発は、植物生態学の世界的権威である宮脇昭先生の指導と現地調査により、登山道整備を計画したことが始まりだ。

2001年の調査開始から3年の準備を経て、2004年に入山受入を開始。以来、多くの入山者を迎えても、いつも変わらず美しい姿を保っている。さらに、自然保護とツアーの安全を第一に、森でのおもてなしの真髓を心得た案内人たちが、森の成り立ちや野生動物・植物などの情報を、工夫を凝らして説明してくれる。

高山市では、五色ヶ原の森を自然環境学習の拠点とすべく、さまざまな活動を行っている。2010年3月には生物多様性や自然環境に対する理解を深め、生物多様性の保全と持続可能な利用を目的とした「生物多様性ひだたかやま戦略」を策定。

市内の小中高生の入山費用を市が負担したり、市民対象のツアーを行ったりしながら、地域みんなで自然資産保護に努めている。

こうした活動が総合的に評価され、2012年、環境省と特定非営利活動法人日本エコツアーリズム協会が主催する「第8回エコツアーリズム大賞」にて、優秀賞を受賞。2013年には、開設10周年記念として「岐阜の宝もの県民ツアー」を開催した。観光資源としてだけでなく、環境保護の徹底と自然生態系の質を高める努力が「岐阜の宝もの」の未来を支えている。



カモシカコースで見られる溶岩流の岩塊「ゴスワラ(地元の方言)」(写真右)と、「炭木岩」(写真左)。



左/ガイドはもちろん、山開き前にはコースの点検や修理も行うスタッフ。  
右/2つの登山道には、合わせて4カ所の避難小屋があり、汚水を排出しない水洗の「バイオトイレ」を設置。

のりくらさんろくごしきがはら もり  
**乗鞍山麓五色ヶ原の森**

**図 五色ヶ原の森ツアーセンター**

高山市丹生川町日面1147 (飛騨大鐘乳洞内)

☎ 0577-79-2344 <http://www.hida.jp/goshiki/>

☒ 東海北陸自動車道経由・中部縦貫自動車道「高山IC」から車で約30分

【平成21年度認定】

# 東濃地方の

# 地歌舞伎と芝居小屋

中津川市  
瑞浪市 恵那市

Gifu  
Brand New  
Treasure

「中津川市・恵那市・瑞浪市」

江戸時代から伝承してきた地域の芸能を  
多くのの人々と魅力を分かち合う観光資源へ

プロの役者が演じる大歌舞伎に対して、素人が演じ、地域で伝承されている歌舞伎は地芝居、農村歌舞伎と呼ばれるが、岐阜県では地歌舞伎という呼び方で親しまれている。全国各地に200ほどある保存会のうち、岐阜県には最多の29が活動し、中でも東濃地方は16団体が集中している。新旧7つの芝居小屋を拠点に、今も定期的上演を続ける東濃地方の地歌舞伎。地域の人々が「観る」楽しみと、「演じる」喜びを共有することで紡いできたその伝統は、より多くの人々と魅力を分かち合う「観光」に取り組むことで、新たな可能性を見出している。

中山道沿道のまちの発展とともに広まり、地域の娯楽として親しまれた伝統芸能

東濃地方の地歌舞伎の起こりは、江戸時代・元禄年間とされる。「西の藤十郎、東の團十郎」と言われた時代で、京の初代・坂田藤十郎、江戸の初代・市川團十郎という東西の二大名優が活躍した。さらに作家・近松門左衛門の登場とともに演目も充実し、都市部では大歌舞伎が人気を集めた。その隆盛ぶりは旅興行によって全国各地へ波及し、農村の有力者らによって神社の境内などに芝居小

屋が建てられた。やがて、観るだけでは満足できなくなった人々が自ら演ずるようになったことが、素人歌舞伎のはじまりだという。多くの素人歌舞伎は神社の祭礼行事と結合した奉納歌舞伎として定着していったが、東濃地方は都市部と同様に娯楽として親しまれてきたという特色がある。

江戸時代の東濃地方一帯は尾張藩の管轄で、中山道や南北街道といった信州と尾張を結ぶ主要街道の交差点であった。人・物・文化が都市から伝わりやすい地域のため、宿場町として栄えていった。また、尾張藩





の重要な収入源である東濃ひの檜の産地であったことから、経済的にも文化的にも豊かな地域であり、地歌舞伎が根づく環境が整っていたようだ。人々があまりにも歌舞伎に夢中になったこともあり、天保年間には全国的に歌舞伎を弾圧する動きが強まったが、東濃地方は尾張藩にとつて重要な地域だったため、芝居公演が黙認された。こうした背景があつて、東濃地方の地歌舞伎は途絶えることなく伝承されてきた。

### 新旧7つの劇場が 人々の夢の舞台になる

芝居小屋は、演じる人、観る人、どちらの人にとつても、まさに夢の舞台だ。明治時代になり、全国的に



歌舞伎が復興すると、多くは仮設の農村舞台から劇場型の芝居小屋に改修された。東濃地方でも、回り舞台や花道、すっぽん、大夫座、下座などを設けた本格的な芝居小屋が数多くつくられ、地域の主要な娯楽としてさらに人気を集める。明治27年に建築された中津川市の明治座は、今も創建当時の姿をそのまま残している。また、旧恵那郡明智町にあった常磐座の舞台と、旧益田郡下呂町にあった相生座の建物を組み合わせ、瑞浪市に移築再現した相生座は、貴重な衣裳や小道具など数多くの歌舞伎資料が保管され、「美濃歌舞伎博物館」としても活用されている。

2000年には、平成の芝居小屋として「東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホール」がオープン。瑞浪市、恵那市、中津川市の3市には、明治時代の歴史的にも貴重な小屋から平成の近代的な設備を整えたホールまで、新旧あわせて7つの劇場が存在。地元保存会が定期的に地歌舞伎を上演し、人々を熱狂させている。

「観光資源」という視点を加えることで、地歌舞伎の可能性が一気に広がる。

東濃地方の地歌舞伎は、これまで幾度となく存亡の危機に直面してきた。昭和時代には戦争で公演できな



役者が見得を切った瞬間、観客が足下に小銭を紙で包んだ「おひねり」を撒く、「花」とも呼ばれる演出。観る側も参加できるのが魅力のひとつ。

い時期があり、戦後も映画、テレビなど娯楽の多様化によって、高度成長期には地域でも地歌舞伎離れが進んだ。そこで、地歌舞伎に魅せられた人たちが集まり、各地で保存会が発足。1964年には東濃地方の15団体が集まって東濃歌舞伎保存会が結成された。しかし、時代の変化には逆らえず、危急存亡の状態は続いたが、平成に入ってから地歌舞伎を後世に伝えていこうという動きが再び高まった。転機となったのは、「東濃ふれあいセンター歌舞伎ホール」のオープンだ。

2000年の開館に際して行われた「東濃の地歌舞伎揃い踏み（ウェルカム21ぎふ）」の成功を機に、3年に1度だった「東濃歌舞伎大会」が毎年開催されるようになるなど、活気が戻ってきた。さらに2010年には「岐阜の宝もの」に認定され、「岐阜自慢ジカブキプロジェクト」が発足。保存会、地域、行政が一体となった取組が始まった。以前と大きく異なるのは、地歌舞伎に関わる人々が「東濃の地歌舞伎と芝居小屋＝観光資源」という視点を持ったことだ。

プロジェクトの発足とともに、東濃の地歌舞伎は地域の枠を超えた活動を始めた。2010年10月には上海万博の日本館で開催された



「地歌舞伎には、道楽の域を超えたおもしろさがある。今後は自主自立した活動へと進化させ、伝統文化を後世へつなげていきたい」と「岐阜自慢ジカブキプロジェクト」会長の市川尚樹さん。

「岐阜県の日」に、中津川保存会が「白浪五人男」をアレンジした「岐阜自慢五人男」を熱演。さらに2011年にはシンガポール遠征公演、2012年には新宿歌舞伎町「岐阜県地歌舞伎座」公演、旧金比羅大芝居「さぬき歌舞伎まつり」参加など、国内外で多数の公演を行い、その存在をアピールしている。

また、JR中津川駅前の「中津川市にぎわいプラザ」に、活動の拠点となる事務所と地歌舞伎の舞台背景を模した展示コーナーを設置。地歌舞伎の公演予定などを紹介するホームページも立ち上げ、独自の情報発信をスタートした。さらに、地域の旅行会社などと連携した芝居小屋を巡る広域観光ツアーや地歌舞伎役者体験ツアーを企画し、2012年度



蛸子座 (中津川市)

1901年築、1949年に現在地に移築。江戸末期から大正にかけての典型的な劇場建築だったが、平成に大改装。花道をなくし、公民館機能を強めた。親子で楽しめる部屋も用意。



明治座 (中津川市)

1894年築。舞台中央にある直径5.5メートルの本格的な回り舞台やスッポン、花道、2階桟敷などの設備も残る歴史的にも貴重な建物。休館日の月曜を除く毎日、見学が可能。



常盤座 (中津川市)

1891年築、延床面積240坪。明治期の劇場形式を残す。瓦葺き、入母屋、切妻、妻入りで、客席はコの字型に板張りの座敷。天井に渡る梁が圧巻である。大改装で回り舞台が復元された。

明治の末頃には東濃を中心に60棟以上の劇場様式の農村舞台が建てられていました。

## 東濃地方に 現存する芝居小屋



上／一般の方が2日間で、舞台稽古から発表までを体験できる地歌舞伎役者体験ツアー。  
下／美濃地歌舞伎博物館 相生座では、貴重な衣裳の数々を、間近で鑑賞することができる。



### 東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋

岐阜自慢ジカブプロジェクト  
☎ 0573-65-1506 <http://www.jikabuki.com>  
(一社) 中津川市観光協会 ☎ 0573-66-5544  
(一社) 恵那市観光協会 ☎ 0573-25-4058  
(公財) 瑞浪市観光協会 ☎ 0572-67-2222



芝居小屋やイベント会場で販売されるオリジナル商品。これら売上の一部が保存会の活動資金となり、地歌舞伎の伝承や地域の発展につながる。



上海万博で「岐阜自慢五人男」を披露する中津川保存会のメンバー。傘の絵柄は岐阜出身のアーティスト日比野克彦氏によるもの。

には223人が参加した。一方、活動の資金を寄付金に頼るだけでなく、オリジナル商品を開発・販売し、その売り上げを活動資金に充てるドネーションシステムを採用。東濃地方の特産品を使用した弁当やせんべいなどの菓子類から、木升やTシャツまで、商品は9品目に広がっている。2013年には、地元の保育園児を対象とした地歌舞伎体験講座を開催。次代を担う子どもたちへ、地域の伝統文化を繋ぐ活動にも積極的に取り組んでいる。

艶やかな芝居衣裳や小道具類なども、地歌舞伎の伝統を次世代に継承していく貴重な文化遺産である。美濃歌舞伎博物館でもある瑞浪市の相生座では、瑞浪市有形民俗文化財指定の「黒天鶯絨地金繡牡丹唐獅子文」をはじめ、江戸末期から、明治・大正・

昭和と受け継がれてきた数々の衣裳やかつら、小道具など4000点以上を収蔵しており、広く一般の方々に公開している。また、地歌舞伎の魅力を感じていただこうと、衣裳の着付け体験や舞台裏の見学なども行っている(要予約)。

**守り続ける精神と、新たな挑戦。そこに東濃の地歌舞伎の未来が見える**

公演となれば、役者集めや裏方の人材確保、衣装などの資金調達など、時間もお金もかかるもの。海外的な出張公演となればなおさらだ。地歌舞伎では、保存会の人たちを中心に衣裳を自分たちで調達し、小道具も手作りするの当たり前前で、古いものは修理しながら次の舞台へと受け継いでいく。

東濃の地歌舞伎は、「役者が自腹を切ってお客さんに観ていただくもの」と江戸時代に旦那衆が資金を提供し、自ら舞台に立ったという伝統を受け継いでいる。そこには、地域の娯楽として、自ら「演じる」喜びと、観客として「観る」楽しみを共有する、地歌舞伎に魅せられた人たちが共に支え合う精神がある。これまで受け継いできた地域の財産を次世代につなげるため、そして地歌舞伎の魅力をより多くの人たちに広く発信するため、「観光」という道を新たに進もうとしている。

時代が変わっても、頑なに守り続ける伝統。時代とともに柔軟に変化し、挑戦していく姿勢。この二つのスタイルを両立させ、東濃地方の地歌舞伎は新たな時代を迎える。



### 美濃歌舞伎博物館 相生座 (瑞浪市)

旧恵那郡明智町にあった常盤座と、旧益田郡下呂町にあった相生座の舞台や客席などを組み合わせ、1976年に日吉町に移築再現。通常は博物館として一般公開。



### 宮盛座／佐々良木公民館 (恵那市)

1953年に芝居小屋と会議室を兼ねた佐々良木公民館として建築され、2004年に改修。その際、戦時中まで近くの神社にあった「宮盛座」の名が付けられた。



### 五毛座 (恵那市)

1951年に建てられた。南北棟の半切妻造花瓦葺。花道を備えた舞台や客席の平土間、棧敷席を設けている。文化庁登録有形文化財。



### 東美濃ふれあいセンター 歌舞伎ホール (中津川市)

2000年開館。「平成の芝居小屋」をイメージし、1階席前7列分の椅子席を柵席に電動でアレンジすることができる。能舞台や文楽回し、音響反射板なども完備。

【平成23年度認定】

# あもうけんりつしぜんこうえん 天生県立自然公園と

# さんしつげんかいろう 三湿原回廊

「飛騨市・白川村」



Gifu  
Brand New  
Treasure

そこは、「子孫からの預かりもの」  
森の命のつながりを、  
そつと見て歩きたい北飛騨の森

飛騨市北部から大野郡白川村、白山山麓にかけての一带は、中部地方でも最も広いブナの原生林。何千年、何万年という時間の中で、独自の豊かな生態系を育んできた。この広大な北飛騨の森の中で、特徴ある植生・地形を持つ3つの湿原・原生林を「天生県立自然公園と三湿原回廊」と名付け、自然を守りながら地域の観光資源として活用する取組が続けられている。その活動の特色は、森の案内人「インタープリター」が活躍していること。森を知り尽くしたインタープリターたちが、観光客、地元の観光業者、そして森を愛するすべての人たちと共に、北飛騨の森ならではのエコツーリズムを追究している。その実績が評価され、2011年10月には「岐阜の宝もの」に認定された。そして翌年10月、天生県立自然公園の入山者は初めて年間1万人を超えた。



三湿原に加えて、その他にも多くの北飛騨の森をマップ付きで紹介しているガイドブック。下記サイトの電子ブックで見ることができます。  
<http://hidamoriaruki.com/map>

## 自然の魅力を手軽に楽しめる 天生県立自然公園

回廊の中心的存在が、天生県立自然公園。県立自然公園に指定された1998年当初の入山者は年間4千人ほどだったが、「岐阜の宝もの」に認定された2011年には約8千人、そして翌年には1万人を超えた。その魅力は、何と言っても豊かな自然の植生が見せる多彩な表情を、山歩き初心者でも満喫できることにある。

飛騨市河合町と大野郡白川村にまたがる総面積約1600ヘクタールの公園は、標高1290メートルの天生峠を境に、南北で異なる様相を見せる。峠の北側は人と自然の営みによって維持されてきた里山の景観が広がり、南側は人の手がほとんど入っていない高層湿原やブナの原生林だ。この森では、日本海側多雪地帯の生態系を象徴する極めて多くの動植物が観察される。しかも、入山可能となる6月初旬からは新緑とともにミズバシヨウ、ニッコウキスゲなどの花が咲き乱れ、10月中旬からは赤・黄・橙と、多種多様な紅葉に包まれる。

こうした天生の森の自然を楽しみ、安全な山歩きをサポートするのがインタープリターだ。花や木、野鳥の名前や特色はもちろん、ブナ林をわたる風の音や鳥や虫の鳴き声など、五感をフ

ルに使うて森の魅力を楽しむ方法を教えてくれる。インタープリターによるガイドツアーは、3時間コース、半日コース、1日コースの3種類あり、山歩き初心者からベテランまで、体力と目的に合わせて選ぶことができる。そのため、中高年のトレッキング人気に加え、近年は20代・30代の山ガールやファミリーの入山者も増えてきた。

## 湿原本来の植生が回復した 池ヶ原湿原

回廊の真ん中に位置する池ヶ原湿原は、約7千年の間、湿地と池を繰り返して湿地性植物群落を形成している湿原。4月下旬から5月中旬くらいまでは、湿原一面を覆い尽くす白いミズバシヨウと黄色のリユウキンカの中を渡る木道を歩きながら散策することができる。2013年の5月は、一カ月で3千人近くが入山した人気スポット。ミズバシヨウの季節が終わる頃、シラカンバ、ミズナラの新芽が現れ、湿原一帯は新緑の季節を迎える。しかし、この数十年、周囲の山に人間が手を加えたことで富栄養化して植生が変わり、夏には高さ3メートル以上のヨシが繁茂するようになったため、6月以降は訪れる人がほとんどいかなかった。そこで、岐阜県からの支援を受けながら、ヨシの2度刈りなど、繁茂を抑制する取組を実施してきた。その結果、湿原





## ふかどしつげん 深洞湿原

岐阜県最北端の集落、通称「山之村」地区の東部、桑崎山と大鼠山の間位置する。標高約1500メートルあたりで、亜高山帯針葉樹の原生林がブナ・ミズナラ林より低いところに残るという逆転現象が見られる。遊歩道の高層湿原周辺では、トウヒなどの巨木、倒木更新による“根上がり”など、自然の営みが見事な造形美に出会える。入山には、国有林の入林許可が必要だが、天空の牧場 山之村などが企画する一般向けツアーに参加すれば入山できる。

深洞湿原・原生林は、神岡からさらに北東、通称「山之村」集落の東に位置する標高1500メートルの高地にある。他の2カ所に比べ湿原の規模は小さいものの、ブナ、ミズナラなど夏緑広葉樹林の下部にトウヒ、クロベ、オオシラビソなど亜高

### 湿原、広葉樹林、針葉樹林 三種の樹種を楽しむ秘境 深洞湿原 原生林

本来の植生が回復し始め、夏の青々とした景色や、湿原の草紅葉と周りの森の紅葉など、春から秋を通して楽しめるようになった。

山帯針葉樹の原生林が広がる、極めて珍しい植生を形成している。うっそうとした森に足を踏み入れると、亜高山帯針葉樹林の「根上がり」という不思議な風景を目にすることができる。倒れた木の上に新たな樹木が育っていくという樹木の命のリーは、数百年という年月の中で生まれた風景である。神秘的な森の植生と、ミズバショウと湿地性植物群の景観、さらにサンカヨウ、ニッコウキスゲなど四季折々の高山植物を一度に楽しむことができる深洞湿原・原生林だが、一般には公開されていない。しかし、2010年から

### 北飛騨の自然と営みを支える インタープリターたち

天然国立自然公園と三湿原回廊が岐阜の宝ものに認定され、多くの観光客に親しまれるようになった背景には、観光資源の活性化と自然環境の保全とを両立させる地元さまざまな取組がある。天生峠を経由



## あもうけんりつしぜんこうえん 天生国立自然公園

■ JR「飛騨古川駅」から車で約50分。東海北陸自動車道「白川郷IC」から車で約30分。登山口となる天生峠に駐車場・トイレあり。天生峠は冬期通行止め（降雪～5月末頃）。6月から10月は、JR高山駅～飛騨古川～天生峠～白川郷を結ぶシャトルバスが運行される（要確認）。



飛騨市河合町と大野郡白川村にまたがる天生峠は、一年の約半分を雪に閉ざされる。この峠を中心に、高山植物群、高層湿原、ブナ原生林、急峻な渓谷とそこにかかる滝など、変化に富んだ雄大な自然を体感できる自然公園。雪解け直後の6月から9月中旬まではミズバショウ、ニリンソウ、サンカヨウ、ニッコウキスゲ、シラヒゲソウ、エブリンドウなどの花を、10月上旬からはブナ、ナナカマド、カエデなどの紅葉を楽しむ。また、泉鏡花の小説「高野聖」、東山魁夷の日本画「山雲」の舞台としても有名。



## いけがはらしつげん 池ヶ原湿原

■ JR「打保駅」から車で国道360号を宮川町塩屋地区、森林基幹林道「洞～数河線」を経て約30分。冬期降雪期間は通行不可。駐車場あり。

「奥飛騨数河川流域国立自然公園」の北部、標高960～980メートルの準平原（ニコイ高原）のほぼ中央の小盆地にある湿原で、岐阜県の天然記念物に指定。4月下旬から5月上旬の雪解けの時期には、約6ヘクタールの湿原一面に30～40万株のミズバショウが咲く。湿原のほぼ中央に木道が整備され、同じ時期に咲くリュウキンカの黄色と白の花の競演は壮観。夏は湿原の新緑に吹き渡る風を、秋には草紅葉やシラカバの紅葉も美しい。



上/地元飛驒市子どもたちを対象とした「ひとり旅」など、将来を見すえた取り組みも始まっている。  
左/天生公園内3カ所に設置されている携帯トイレ用のブース。野外排泄をなくすための取り組み。



天生峠を経由してJR高山駅と白川郷を結ぶシャトルバスが運行されており、年々利用者も増加している。



四季とりどりにさまざまな様相を見せてくれる原生林。特に秋の彩りが美しいのだとか。

してJR高山駅と白川郷を結ぶシャトルバスの運行（6～10月）、地元観光・旅行者によるツアー・体験プログラムの実施、ホームページによる情報発信などにより、「森歩き」に訪れ、宿泊する観光客が増加。一方で、公園内に携帯トイレと専用テントの配置、外来植物の除去、天生の自然のファンクラブ「天生の森サポーター倶楽部」の創設など、地道な自然環境の保護・保全活動も成果を見せ始めてきた。こうした地元の取組に大きな役割を果たしてきたのが、インタープリターの集まりである「飛驒市・白川郷自然案内人協会」だ。

「私たちのテーマは、『大地は先祖からの贈り物ではなく、子孫からの預かりもの』。次の世代に健全な森をつないでいくためには、地域の営みが続いていかななくてはなりません。インタープリターは、この考えを観光客に伝え、実践していく

役割を担います」。そう語るのは、2006年に協会を立ち上げたメンバーの一人である岩佐勝美さん。現在、協会には約40人のインタープリターが在籍している。インタープリターたちは、これら三湿原に限らず、大白川や白木ヶ峰なども含めた北飛驒の森全体を、滞在型森のリゾートとしてブランド化を推進している。さらに、地域ならではの特産品開発に取り組み、ガイドツアーの際に食べてもらおうと、地域の食材を使った「飛驒の森弁」や、「お土産用のピンバッジと絵はがきセット」などを地元の観光協会などと連携して開発した。

### 地元在住の若いインタープリターを育てたい

協会の仕事は入山者の要望に応じたインタープリターの派遣はもちろん、新たな人材の育成も重要なポイントだ。しかし現状では、ほとんどのインタープリターが他の仕事をしつつあり、三湿原で増え続けるガイド依頼に対応するには十分な数ではない。また高齢化も進んでいるため、岩佐さんたちは、「今の課題は、若い質の高いインタープリターの養成」と考えている。

「岐阜の宝もの」の認定もあり、

観光客は順調に増え続けている。しかし、岩佐さんは手放しで喜べないという。「数年前までは観光客のほとんどがシニア層でしたが、都会の女性グループ、30代の夫婦と子ども連れなど、一気に多様化しました。また、リピーターも増えていますが、すべての方にきちんと伝えていくためには質の高いインタープリターの養成が急務なのです」。

岩佐さんたちの取組に共感して、若い人のガイド養成講座への応募も増えてきた。自然の仕組みをきちんと伝え、その奥深さを感じとってもらうことがインタープリターの仕事。地元の自然を熟知し、植物の生き方を知っていること。さらに、飛驒の人たちがどのように森に接してきたかを伝えること。それらを伝えるためには、地元在住の人材が理想だ。「近い将来、インタープリターの仕事を中心に、地域で生活しているシステムを作り上げたい」。それが、岩佐さんたちの目標となっている。



北飛驒の特産品として開発された「飛驒の森弁(上)」と「ピンバッジ・絵はがきセット(下)」。



飛驒市・白川郷自然案内人協会 岩佐勝美さん。



### あもろけんりつしぜんこうえん 天生県立自然公園と 三湿原回廊

飛驒市・白川郷自然案内人協会 ☎0577-65-2211  
飛驒市観光課 ☎0577-73-2111(代)  
(一社)飛驒市観光協会 ☎0577-74-1192  
白川郷観光協会 ☎05769-6-1013  
白川村観光振興課 ☎05769-6-1311(代)

水とともに生きる人々と、  
そこに紡がれゆくストーリー

「水都」大垣。この地で多くの人の喉を、そして心を潤し続けてきた「水」。  
水を活用した文化や産業は、その深みを増し、  
この名水を守りたいという人々の思いは、  
市民主体の「水を活かしたまちづくり」へつながっていく。



【平成 24 年度認定】  
明日の宝もの  
*Asu no Takaramono*

# 大垣水景物語

「大垣市」



# 大垣の湧水・地下水

## 湧き出る水に、心を澄ませて

「水の都」大垣。古くからこう呼ばれてきた大垣市。ここは、長良川・木曾川・揖斐川などの伏流水からもたらされる地下水が豊富で、市内に点在する自噴井戸から清く美しい水が湧き出ている。

昭和初期までは、多くの家庭が掘り抜きの自噴井戸を持っていた。時代の変化とともにほとんどは姿を消したが、今も市内17か所の自噴井戸が、自由に水が汲めるように整備されている。



水温は1年を通して約13°C、濁度0.1未満という極めて純度の高い軟水が湧き出る「加賀野八幡神社井戸」

大垣市観光協会  
☎ 0584-77-1535  
<http://www.ogakikanko.jp/>



2012年に誕生した17か所目となる「むすびの泉」

JR大垣駅から北東へ2キロほどのところにある「加賀野八幡神社井戸」。ここは、環境省「平成の名水百選」に選ばれてから知名度が上がり、市内はもちろん県内外から水を汲みに行く人が絶えない。そこで大垣の名水を多くの人に親しんでもらおうと、ペットボトルや瓶入りの「おいしい大垣の水」や、大垣の水を使った「大垣ラムネ」などを販売。ガラス瓶とラムネ瓶は、地元の主要産業であるガラス瓶メーカーとコラボしたもの。

2012年には「奥の細道むすびの地記念館」敷地内に、17か所目となる自噴水「むすびの泉」が誕生。夏のイベント開催時には、この泉から湧き出る水を活用し、子ども用の大きな特設プールを作っている。どこよりも冷たく、美しく澄んだ水で遊ぶ子どもたち。大垣ならではの水の楽しみ方といえよう。

## 川港の歴史と文化を今に伝える

### 住吉燈台・船町港・赤坂港

現在も、揖斐川や水門川、杭瀬川など多くの河川が流れる大垣市。江戸時代から明治時代にかけては、この川を使った水運交易が盛んであった。中でも、美濃路と交わる水門川の川港「船町港」や、中山道赤坂宿のすぐ隣にある「赤坂港」は、水と陸の交通がうまく噛み合い、たいへんな賑わいを見せていた。

当時の風情を今に残しているのが、船町港跡。1840年に建造されたとされる住吉燈台は、当時から港を行き交う船の目印としての役割を担っていた。その美しい佇まいは川港の趣を今に伝える。

さらにここ数年は、水門川で楽しむ舟下り



左/2012年にオープンした「奥の細道むすびの地記念館」  
右/船町港のシンボル住吉燈台

下/いつもと違った景色眺めることができる「水の都おおがきたらい舟」

大垣市観光協会  
☎ 0584-77-1535  
<http://www.ogakikanko.jp/>

が話題を呼んでいる。舟からゆったりと川辺の絶景を眺める「水の都おおがきたらい舟」や、たらいに乗って水門川を下っていく「水の都おおがきたらい舟」。川に目をやれば、川底が見えるほど澄んだ水に心洗われ、視線を上に移すと、季節ごとに美しい景色が広がる。いつもとは違った角度で、大垣の水景に浸ることができる場所なのだ。

また、船町港は松尾芭蕉の『奥の細道』のむすびの地としても有名。2012年にオープンした「奥の細道むすびの地記念館」では、松尾芭蕉の功績を紹介している。



石積みの上に建つ水屋。ここには家宝も取められていたとか。



輪中文化を伝える資料館「大垣市輪中館」

- 大垣市輪中館 大垣市入方2-1661-1 ☎ 0573-69-2336
- 大垣市輪中生活館 大垣市入方2-1723 ☎ 0584-89-6787
- JR「大垣駅」から養老鉄道「友江駅」下車すぐ  
名神高速道路「大垣IC」から約5分

## 水との闘いで築かれた水防文化

豊かな水の恩恵を受ける一方で、大垣は時に猛威をふるう水と闘い続けてきた地であることも忘れてはいけない。今、水と寄り添いながら暮らしていけるのは、過去の困難を乗り越えてきた先人達のおかげとも言えるのだ。

揖斐川・水門川・杭瀬川をはじめ、21本の一級河川が市内を流れる大垣。さらに海拔3〜4メートルの水郷地帯も広く、大雨が降るたびに水害に苦しめられた。江戸時代以降、先人達は集落や耕地の周りを堤防で囲む「輪中」を築造。さらに避難用の家屋「水屋」を母屋近くに作っていった。水屋とは、屋敷内でも一段と高く積み上げられた石垣の上に建てた小屋で、そこに寝具や衣類、食料などを備蓄し、水害時にはそこで生活をしたという。

こうした輪中特有の文化や歴史、生活様式を後世に伝えていくため、大垣市では資料館「大垣市輪中館」と、輪中民家を復元した「大垣市輪中生活館」を開館。観光客が訪れるのはもちろん、市内の小中学生たちは、ここで輪中文化について学び、先人達の苦悩と知恵を知る。

水屋建築は、水害の悲惨さと防災の重要性を今に伝える大切な存在であるが、老朽化などが原因で、近年は取り壊しを余儀なくされることも。その景観を次代に残していくため、輪中研究会のメンバーを中心に「輪中を語り継ぐ会」を結成し、輪中見学会や講座などを年数回開催している。市内のどこどこに残る輪中の風景。大切なものを守るために、命がけで水と闘ってきた先人の苦勞を知り、輪中文化を継承していくことが、この地に住む人たちにとって大切なことなのだろう。

大垣の夏の風物詩といえば、「水まんじゅう」。葛粉やわらび粉で作られた半透明の生地でこしあんを包んだ和菓子だ。ひんやり冷たくてのどごしの良い、「水の都」大垣ならではの夏の名菓。冷たい水水に浮かべていただく水まんじゅうは、ぜひ名水と一緒に味わってほしい。

最近では、あんの種類も豊富になり、スタンダードな小豆や抹茶のほか、いちごや桃、ぶどうといったフルーツあん、さらにはコーヒーマンの「オオガキ珈琲水まんじゅう」も登場。水まんじゅうがかき氷に隠れた「水まん水」も人気だ。

市内にある「大垣水まんじゅう製造組合」では、伝統を守る一方で、新しい取り組みも進んでいる。各店舗で少しずつ味が違う水ま

## 名水から生まれた、夏の名菓

### 水まんじゅう



水と水で冷やして食べるのが「水まんじゅう」の定番

■ 大垣市観光協会 ☎ 0584-77-1535  
<http://www.ogakikanko.jp/>

んじゅうを食べ比べするイベントや、水まんじゅうづくり体験などを実施。2013年には、大垣市観光協会の「大垣市特選推奨観光土産品」にも認定された。

今までは夏限定の販売だった水まんじゅうだが、ここ数年は4月上旬から販売を開始する店舗が増え、より多くの人が長い季節楽しめるようになった。大垣の名水が生んだ名菓。歴史や伝統の継承とともに、新しい角度からもその魅力を発信し続けている。



水まんじゅうづくり体験教室

冷たい水が流れる水舟は、和菓子店の店先に登場。その場でおちょこをひっくり返し食べることができる。



## 名水わさび

### 名水が叶えた、奇跡のわさび

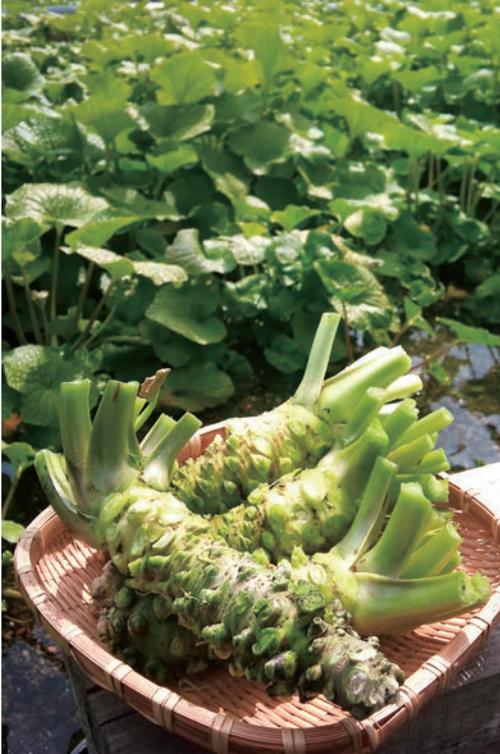
大垣の名水が不可能を可能にした、そんな名品がある。2011年9月、長野県で開催された「全国わさび品評会」において、初出品にもかかわらず優秀賞に選ばれたという快挙を達成した「名水わさび」。

わさびと言えば、暑さに弱く比較的涼しい山間部の溪流沿いで育つのが一般的だが、平地である大垣市内で栽培されているのだ。

その秘密は自噴水。年間を通して13℃前後と安定している水温が、わさび栽培に適しているのだ。とは言え、大垣は気温も湿度も高く、栽培に不向きな条件も多い。そこで、生産者である坂野さんは、気候や水質、土壌、傾斜や水の流れ方など、長い年月をかけて細かな研究

を重ねた。それが実を結び、大垣の地でしかできない、奇跡のわさびが誕生したのだ。

「わさび漬け」や「わさび味噌」などの加工品はもちろん、希少な「わさびの花」を食用として限定販売するなど、可能性をどんどん広げている。さらにここ数年は、地元の洋菓子店や製麺会社とのコラボ商品を開発したり、わさび園の見学を受け入れたり、意欲的な取り組みを行い、わさびは大垣の新たな観光資源になりつつある。大垣でしかできない栽培方法をこの地に根づかせ、生産者を増やしていくことが夢だと語る坂野さん。「飛騨・美濃すぐれもの」にも認定された「名水わさび」。水都大垣が誇る新たな魅力として、今後さらに注目である。



■ 名水わさび  
大垣市曾根町3-151  
☎ 090-5116-2903  
FAX 0584-81-9170



上/無農薬栽培のわさび。栽培期間が長いため、うま味が凝縮し、身が締まった上質なわさびに育つ。  
下/試行錯誤の末、夏は涼しく冬は暖かいわさび田が完成。水温は13℃前後に安定している。

## 木枘

### 世界にその名を響かせる木枘

大垣を語るのに忘れてはいけないのが「木枘」の存在である。明治時代、木曾の檜の一大集積地であった名古屋から、1人の枘職人が大垣へ移り住んだことにはじまったと言われている。以来、木枘づくりはめざましい発展を遂げ、現在、市内にある5つの工場で生産している木枘が、全国シェアの8割を占めている。

もともとは、お米などを計る道具だった木枘。そのほか、日本酒を飲んだり、節分の豆枘を入れる容器などとしても使われてきた。「木枘の魅力をもっとたくさんの人に伝えたい」と、(有)大橋量器の社長、大橋博行さんは、木枘を使った照明器具や、バスソルトを中心に入れた「枘ソルト」など、趣向を凝らした商品を数々生み出してきた。

また、大橋量器では、国内にとどまらず、海外へも目を向けた情報発信にも意欲的だ。2010年の「上海国際博覧会」のほか、



木枘をさまざまなデザインにアレンジした商品。

■ 大垣「ます」生産者実行委員会(有限会社大橋量器内)  
大垣市西外側町2-8 ☎ 0584-78-5468

### 「水の都」と誉れ高い大垣で

水が豊かな大垣では、それを生かした産業や文化が、ごく自然な形で守られながら、日々進化を遂げている。その裏には、この地を、そしてこの水を愛する人々の、たゆまぬ努力がある。歴史を守り、伝えながら、水を活かしたまちづくりや観光振興が今後さらに広がることだろう。大垣の美しい水景を眺めながら、水と生きる人々の物語を感じてほしい。

2012年には「ニューヨーク国際ギフトフェア」に出展。ここでは世界的に有名なファッションブランド「ポール・スミス」の目に留まり、赤・黄・緑などに塗った斬新なデザインの木枘の発注を受けた。大垣の木枘は、今や世界へとその名を響かせているのだ。狂いのない木組みの技に、慣れ親しんだフォルム。その美しさは、この地で育まれてきた伝統の証でもある。これからもいろいろな形で、この伝統を紡いでくれるのだろう。



ノスタルジックな旅が楽しめる、  
個性豊かな4ローカル鉄道

養老鉄道、明知鉄道、長良川鉄道、樽見鉄道。

個性豊かな岐阜の4ローカル鉄道は、

車窓から眺める風景も四季折々に美しく、

のんびりとノスタルジックな旅を楽しむことができる。

加えてグルメ列車やイベント列車の運行、

ご当地まっぶの販売、ウォーキングイベントの開催など、

各鉄道で工夫を凝らした取り組みを展開しており、

それぞれが人気のアトラクションとして定着している。

# 岐阜ローカル 鉄道の旅

【平成 24 年度認定】

明日の宝もの

*Asu no Takarumono*



## 4社共同企画や今後の沿線まち歩き 観光プログラムに期待

2013年2月に、養老鉄道、明知鉄道、長良川鉄道、樽見鉄道が、岐阜ローカル鉄道の旅として明日の宝ものに認定されたことを契機に、同年7月に4鉄道による「岐阜ローカル鉄道連

絡会議」が発足した。

これまでも明知鉄道、長良川鉄道、樽見鉄道の3社による「岐阜県第三セクター鉄道連絡会議」が存在したが、これはサービス、マナー、安全講習会の共同開催や車両トランプの際の部品の貸し借りなどが中心で、あくまでも自社の利用者増加と安全で効率的な鉄道運営の促進を目的と

して活動してきた。

今回発足した連絡会議は、4社が連携することにより鉄道全体の利用促進を強化する狙いがある。その動きは早く、9月には明日の宝ものに認定されている大垣市の「木柙」とコラボした「柙酒列車」を4社で運行。各社の沿線地域には、それぞれに特徴ある地酒があり、日本酒好き

にはうれしいイベントになった。また、合同ボスターも製作され、4鉄道の連携による県内観光利用の増加が期待される。

さらには、4つのローカル鉄道を活用した新たなイベント（ぎふローカル鉄道博覧会）も企画され、今後さまざまなローカル鉄道の旅が楽しめそうだ。

# 【養老鉄道】

●海津市⇄揖斐川町

揖斐川を沿うように、  
全27駅、57・5キロを走る、  
マルーン色のローカル鉄道

サイクルトレインで  
自転車での観光も楽しめる

養老鉄道では、桑名駅を除く全駅において、電車内に無料で自転車を持ち込める「サイクルトレイン」を実施している。自転車を持ち込める時間帯は土・日・祝日は終日、平日は9～15時頃までで、列車の先頭車両には目印として円形のヘッドマークが取り付けられている。

また、電車を使った優雅で贅沢な旅の企画も人気だ。毎週木・土曜日の昼には、地元の食材を取り入れた薬膳料理が楽しめる「薬膳列車」が運行されている。料金は1日フリー切符付きで5,000円。四季折々、旬の食材を使ったメニューを用意している。

沿線市町・地域の企業と協力し、  
独自のアイデアで新たな魅力を創出

沿線の企業や市町とのコラボレーションによるさまざまなアイデア商品も発売。大垣市に本社を置く音響機器メーカーとタイアップしたオーディオアンプや、パッケージに電車のイラストをあしらった日本酒（純米酒）、沿線市町の特産品（大垣の木柙、養老のヒヨウタン・バット、桑名のハマグリなど）を使ったユニークな形態の切符も発売してきた。以前から取り組んでいた企画のノウハウを、さらに積極的に展開し、新しい魅力を送出し続けている。



☎ 養老鉄道株式会社  
大垣市木戸町910(西大垣駅内)  
☎ 0584-78-3400  
http://www.yororailway.co.jp

☒ 名神高速道路「大垣IC」から車で約15分



左/手軽にサイクリングを楽しむファミリー、カップルから本格的なツーリストまで。サイクルトレインの利用者は幅広い。  
上/これまでに発売されたユニークな記念切符の数々。  
右/オリジナルグッズ



オーディオアンプはマルーン色の車体をイメージ。



左/「おいしく食べて元気になる」をキャッチフレーズに、地元産野菜を豊富に使った健康的なメニューを提供。スタッフの軽快なトークも魅力だ。  
右/パッケージもユニークな純米酒「養老鉄景」



美しい車両は鉄道ファンの間でも人気が高く、全国各地から訪れる。

# あけち 【明知鉄道】

● 恵那市 ↑ 中津川市

観光資源を結ぶ重要な軸として、  
文化的役割をも担うローカル鉄道

全11駅、路線距離25・1キロ  
田園地帯をのんびり南下

恵那市の恵那駅を起点とする  
明知鉄道は、中津川市阿木を  
由し終点となる明智駅まで、東  
濃地方の田園地帯を縫うように  
のんびりと南下し、心やすらぐ

風景を車内に届けてくれる。  
温泉がセットになった滞在型  
の企画列車も新登場

観光客のみならず地元住民か  
らの人気も高いのが、月曜日  
を除く毎日運行されるグルメリ  
列車だ。春から秋にかけては、「寒



左/つり革広告は  
5,000円で1年間メ  
ッセージが発信できる。  
右/愛称命名権に  
よってネーミングされ  
た列車。プレート部分  
は記念に持ち帰ること  
ができる。



人気の「極楽ゆき」切符



■ 明知鉄道株式会社 恵那市明智町469-4  
☎ 0573-54-4101 <http://www.aketetsu.co.jp>  
📍 中央自動車道「恵那IC」から車で約40分

天列車」、秋は「きのこ列車」、  
冬は「じねんじょ列車」と、旬  
の料理を通じて季節を感じさせ  
てくれる。2013年は、地

元の旬の食材を使った「お花見  
弁当」や「山菜弁当」を企画し  
人気を集めた。



# ながらがわ 【長良川鉄道】

● 郡上市 ↑ 美濃加茂市

清流・長良川を眺め、  
ゆったりとした時の流れを味わう  
ディーゼル車の粋な旅



■ 長良川鉄道株式会社  
関市元重町74-1  
☎ 0575-23-3921  
<http://www.nagatetsu.co.jp>  
📍 東海北陸自動車道「関IC」  
から車で約10分

電線がないから  
美しく景色に溶け込む

ガタンゴトンと清流・長良川  
を沿うように走る1両の電車。正  
確にはディーゼルエンジンで走  
る「汽車」である長良川鉄道は、  
電気を使わないので当然電線も  
ない。「景色に余計なものがない、  
走っている姿も美しいでしょ  
う？」と長良川鉄道(株)総務部  
の中井啓介さん。

沿線には、美濃加茂市の「中山  
道太田宿」、関市の「刃物ミュー  
ジウム回廊」、美濃市の「うだつ  
の上がる町並み」、郡上市の「郡  
上八幡城」など、数々の観光スポ  
ットが点在する。

絶景ポイントでは  
速度を落とす走行

長良川鉄道の見どころは、なん  
ととっても車窓から眺める清流・  
長良川の景色。その美しい風景を  
じっくりと楽しめるのが「ゆら  
り眺めて清流列車」だ。湯の洞温  
泉口駅から郡上八幡駅までの区間  
には、長良川と支流にかかる大き  
な橋梁が7カ所あり、絶景ポイン  
トでは速度を30キロ以下に落と  
してゆっくり走ってくるとい  
う、うれしい心配りがなされている。



車窓に流れるのどかな風景を楽しみながら、地元料理屋による山里ならではの料理が味わえる。

また、花白温泉駅で下車し「花白温泉花白の湯」での温泉入浴と食事が楽しめる滞在型の新企画もスタート。鉄道、温泉、食事の3要素がセットになって、これまで以上に旅行気分が満喫できる。

その他のオリジナル企画も充実  
 まずは充実するグルメ列車  
 だけでなく、ユニークな取組もい

ろいろと実施している。列車内のつり革に1個年間5,000円で広告が入れられ、会社広告をはじめ個人へのメッセージ、イベント告知など自由にアピール可能。また、1往復5,250円で列車の愛称命名権も発売している。自分の好きな列車名を入れたネームプレートが車両の前後に掲げられ、走行後は記念に持ち帰ることができる。



上/車窓から眺める清流長良川の美しい風景は格別。  
 下/貸切お座敷列車も人気。季節にあわせていろいろな企画列車が走る。

「連日満席の「こたつ列車」などいろいろな企画列車が登場  
 長良川鉄道でも、趣向を凝らしたさまざまなイベント列車を展開中。新たに誕生した冬の「こたつ列車」は、列車内に「こたつ」という何とも不思議な組み合わせが話題となり、連日満席の人気企画となった。他にもホテル列車、どぶろく列車、ユリ園列車、お花見列車など、沿線の観光資源と連携した新しい企画を登場させている。

# 樽見鉄道

たるみ

●大垣市 ↔ 本巣市



樽見鉄道株式会社  
 本巣市曾井中島680-11(本巣駅内)  
 ☎ 0581-34-8039  
 http://tarumi-railway.com  
 名神高速道路|岐阜羽島IC|  
 から車で約50分

水都・大垣駅から、  
 淡墨桜のある樽見駅までを約1時間で結ぶローカル鉄道

300mの直線距離を運転  
 できる運転体験講習会が人気

大垣駅から本巣駅までは通勤や通学、買い物利用者が多いが、本巣駅から樽見駅にかけての区間は観光利用が多く、根尾川の渓流に沿うように列車が走り、9つのトンネルと10の橋を越え、春の桜、秋の紅葉など四季折々の美しい景色が堪能できる。

樽見鉄道で人気を集めているのが「運転体験講習会」だ。本物の列車を300mにわたり直線で走らせることができる。これは全国にもほとんど例がなく、日本中から参加者が集まってくる。同体験では、運転士名札や白手袋、運転体験証明書がもらえるほか、体験運転士の辞令も発行されるなど本格的。すでに

15回も参加している熱烈的なファンもいるほどだ。  
 婚活列車では2組がゴールイン  
 ”タルテツ”ファンづくりに

取り組み  
 地域とともにある鉄道として、企画の持ち込み依頼にも積極的に対応している。珍しい企画としては「婚活列車」の運行。男女18名ずつが参加し、なんと10組も

のカップルが成立。  
 そのうち2組が結婚したという。

自ら企画・体験  
 できる身近なローカル鉄道として、1人でも多くのファンを増やす取り組みが続けられている。



運転体験講習会には全国からファンが押し寄せる。

しし鍋列車の車内。イベント列車は利用者から持ち込まれた企画も多い。



# なか 中津川の 栗きんとん巡り

東濃地域を代表する

銘菓「栗きんとん」は、中津川が発祥の地。

素材にこだわり、伝統製法を守りつつ、

菓子職人たちは、味と品質を追求しつづけている。

高級和菓子として知られる「栗きんとん」を

もっと楽しんでもらおうと発祥の地ならではの取組も展開。

新たな「栗きんとんファン」づくりを注いでいる。

## 今年はこの味がする 「中津川の栗きんとん」

江戸時代、中山道46番目の宿場町と

して栄えた中津川は街道を通じて東

西の文化が入り交じり、独自の文化

が発達。山々に囲まれた地ではある

ものの、もともと文化、伝統に秀でた

地であったことから粋人も多く、江

戸時代には遠く江戸や京より文人墨

客を招き、茶会や詩歌の会を催して

いた。風流文化を愛でる茶会の席で、

お菓子は重要な脇役。舌の肥えた客人

をもてなすため、中津川の菓子職人た

ちは切磋琢磨し腕を磨き、東濃地域

を代表する銘菓を作り上げてきた。

全国的に知られている「栗きん

とん」といえば、栗を煮つぶしたり、

サツマイモを裏漉ししてつくる餡に

甘く煮た栗を混ぜたもの。一方、

中津川をはじめ岐阜県近隣で「栗き

んとん」といえば、栗の実をかたどつ

た高級和菓子。栗の収穫が始まる9

月から店頭に並び、秋から冬にかけ

てこの地域の風物詩となっている。

炊いた栗の実を取り出し裏漉

しし、それに砂糖を少し混ぜたもの

を茶巾でキュッと絞ればできあがり。

シンプルな製法だけに、素材となる

栗の風味を何よりも楽しめる和菓子

だ。菓子職人にとっては、素材を見

極める目と菓子づくりの腕を試され

る商品でもある。中津川では、おい

しい「栗きんとん」を食べてもらう

ために、秋に収穫された新栗だけを

使う。新栗が無くなった時点で、そ

の年の発売も終了。まさに「今年

の栗でつくる、今年だけの栗きんと



【平成24年度認定】

明日の宝もの

Asu no Takaramono

[中津川市]

栗の実を取り出し、  
茶巾に絞って栗へと戻す。  
職人のこだわりが凝縮した一粒





# 笠置山クライミングエリア

笠置山の中腹に、大自然の恵みを  
生かしたクライミングエリアが広がる



手の滑り止めチョーク、落下時の衝撃吸収用クラッシュパッド、専用シューズがあればクライミングが体験できる。



「クラッシュパッド」  
レンタル料  
1枚1,000円/日



安全を確保するもの以外は器具を一切使わず、岩のでっぱりやへこみに手足をかけ、筋肉をフル活用しながらつぺんまで登っていく「フリークライミング」。このスポーツの始まりは、ヨーロッパ。それまでは登山の手段だったが、1950年代のアメリカ・ヨセミテ国立公園に「フリークライミング」自体を目的に訪れる人が増え、次第に世界へ広まっていったという。

形状、触り心地、固さなど、  
クライミングファンを誘う  
魅力的な巨岩が点在

2008年の「大分国体」で競技種目に採用され、2012年の「ぎふ清流国体」でも正式競技としてエントリーされた注目のスポーツ。フリークライミング。競技人口は日本国内で約15万人、人工壁体験者は60万人以上に達している。

2009年にオープンした日本屈指のクライミングエリアがある笠置山は、恵那市北部に位置する標高1,128メートルの独立峰で、文字通り笠を置いたように広がる山裾が特徴だ。日本を代表するプロクライマーの小山田大氏が、「山中には巨岩が多く、ロープなどの道具を使わずに2〜5メートルの岩を登る最もシンプルなボルダリング（フリーク

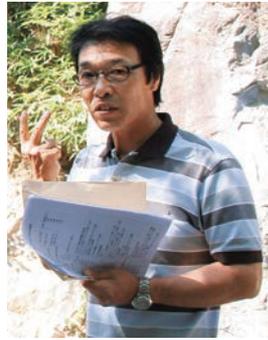


【平成24年度認定】  
明日の宝もの  
Asu no Takaramono

【恵那市】



大岩展望台からの眺望も良好。



笠置山クライミング協会の石原会長。

ライミングの一種」にも適した素晴らしいエリアである」と認めたことをきっかけに、2008年から1年かけて開発が行われた。

林道以外に何もなかった所に、約60台の駐車場と看板・トイレを造り、2011年にはシャワー室も設置。「二からつくり上げたんですよ」と、



親子で楽しむクライミング体験イベント。



駐車場、トイレ、案内看板の整備で、快適な環境が整った。

感慨深げに話してくれたのは、笠置山クライミング協会会長の石原喜さん。地元の人にもクライミングとの接点を持ってもらうために1キロの散歩道「森林浴散策・クライミング見学コース」も拓いた。その後も初心者向け講習会の開催、地元特産品を活用したお土産や弁当の開発など、ハード・ソフトともに充実を図る取組を展開している。

### 自らの身体だけで自然の岩を制覇することの爽快感！

150個もの自然の岩場でクライミング体験できるのが笠置山なら

ではの魅力。国体選手、カナダやアメリカの有名プロ選手、全国のクライマーなども訪れる。入山者数は、オープンから4年半で約1万5千名に上った。岩の名前、グレード、GPSナビなどが記されたプロクライマー監修ガイドブックも出版されるなど、クライミングをより楽しんでもらうための試みも増加中。クライミングは自分の身体が支えられればトライできるスポーツ。子どもからお年寄りまで誰でも楽しめ、ダイエツト目的に楽しむ人もいるのだそう。笠置山の知名度を上げ、クライマー人口を広げるために、全国のジムにポスターを配布。笠置コミュニティセンターには人工壁を作り、クライミングの基礎知識やテクニクが学べる教室も開催している。

### クライミング体験イベントを開催 新エリアオープンに向けた 調査もスタート

2013年8月には、親子で岩登りを楽しむ「をテーマにしたクライミング体験イベントを開催。人工壁でのクライミング体験に加え、冷たいスイカやトマトのふるまいや、笠置山からメッセージ風船を飛ばすなど、家族連れで参加できるメニューを用意して、気軽にクライミングに親しんでもらう取組を進めている。

11月にも初心者向け体験イベントが開催され、クライミングファン獲得に向けた動きは加速している。

また、全国から集まってくるクライマーのための魅力的なルートを設定しようと、新エリアのオープンに向けた岩場の調査もスタート。また、新エリア用の駐車場の整備など受け入れ体制も進化し続けている。

入山記帳所に隣接した農産物直売所「ふれあいはあもいの店」では、笠置町名産のユズの加工品や、五目飯やおこわなどの弁当類を販売。クライマーからの人気も高まりつつある。



かさざきやま  
**笠置山クライミングエリア**  
 笠置山クライミング協会  
 恵那市笠置町姫栗1344-4  
 ☎ 0573-27-3155  
 (一社) 恵那市観光協会笠置支部  
 恵那市笠置町姫栗10-2  
 ☎ 0573-27-3110  
 ㊦ 「恵那IC」から車で県道68号で約40分



クライマーは全国各地からやってくる。

どんな岩も身一つでアプローチする。



たね くら

# 種蔵

たな だ

# 「棚田と板倉の風景」と

やま ぶんと か

# 山里文化



【平成24年度認定】

明日の宝もの

*Asu no Takaramono*

[ 飛 騨 市 ]

飛騨市の中心部から、宮川の流れに沿って北へ向かう国道360号をそれて、山肌を縫うように登っていくと「種蔵」の集落に行き着く。そこに広がるのは、道中からは想像もできない農村風景。豊かな水をたたえる石積みの水田に、点在する板倉群。この風景は、集落の人々が、今もこの地に根つき、昔と変わらない営みを続けている証なのだ。

## 板倉を通して 受け継がれる種蔵の心

飛騨市宮川町・種蔵地区。山の中腹に開けたこの農村には、今も12世帯22人が暮らす。集落の始まりは平家の落人の隠里と言われ、人々は農業と養蚕、炭焼きを生活の糧として、この地で生きることを選択し続けてきた。その営みを象徴するのが、集

落に20棟現存する木造の小屋「板倉」だ。多くは内部が2階建てで、1階部分に穀物やそれらの種、農機具が、2階部分に家財や冠婚葬祭で使う調度品などが収められている。山間の農村にとって、穀物やその種は命をつなぐ貴重なもの。そのため、板倉は火災の延焼から逃れるために母屋から離れた場所に建てられ、現在も万一の漏電に備えて電気は通って

そこにあるのは、  
淡々と繰り返される人々の営み。  
「変わらない」ことの大切さと、  
厳しさが心にしみる風景





「太陽に照らされて焼けた石に夕立があたり、湯気がたちこめるかおりが感じられる」として環境省の「かおり風景100選」に選ばれた種蔵棚田。ぎふの棚田21選にも選定されている。

ない。板倉の数が世帯数よりも多いのは、集落を出て行った人たちが板倉だけは残し、地域の人たちが受け継いで大切に保存しているから。集落に伝わる、「住む家は壊しても、蔵だけは守れ」という先祖の教えが今も息づいている。

また種蔵には、飢饉や不作に備え「常に1年分の穀物を板倉で備蓄せよ」という厳しい習わしがある。元禄時代、飛騨地方全域が未曾有の飢饉に見舞われ、近隣の集落が種として残っていた穀物まで食べ尽くしてしまつた時でも、この地域の人々は板倉に備蓄していた種を惜しみなく分け与えることができたと伝えられる。種蔵集落の板倉は、何百年続く人々の営みを今に伝え、厳しい環境の中で育まれた知恵と工夫、そしてこの地に住み続ける誇りを後世に伝える

タイムカプセルなのだ。

## 棚田は、集落の人々の思いと労力の結晶

焼畑農法で粟や稗などの雑穀しか収穫できなかった種蔵の人々の「米を自給したい」という願いがなかったのは約70年前のこと。昭和15〜27年にかけて灌漑用水の水路が開田工事が行われ、急斜面でも収穫量を増やすために土手を石積みにした棚田が造られた。しかし、戦時下で多くの男性は戦争に駆り出されたため棚田造りは高齢者と女性に託された。大きな石は秋までに山から下ろし、雪が降り積もってからソリで運び、10年以上の歳月をかけて造られた棚田には、今も豊かな水がサイホン式用水で送り続けられている。

棚田は小まめな水量調節が必要で、大規模な農業機械が使えないため田植えや刈り取りは人手に頼らなくてはならない。しかし、集落は過疎化・高齢化が進み、昭和40年代から稲作の規模は縮小を続け、現在では農家が自分たちで食べる程度収穫している。



「種蔵を守り育む会」の中心的なメンバーでもある「板倉の宿 種蔵」支配人の荒谷勇さん。

## 新名物と交流で、集落に新しい活力を注ぎ込む



柱と貫の格子に板を落とし込む、「かけづくり」という独特の工法と、腐りにくく堅い栗の木を使うことで長い間、風雪に耐えてきた。

まさに限界集落の典型とも言える種蔵集落だが、「種蔵棚田の雨上がりの石積み」が、2001年に環境省の「かおり風景100選」に選ばれたのをきっかけに、集落を元気にしていこうという機運が盛り上がり、2006年に「種蔵を守り育む会」が発足。景観保全ボランティアによる草刈りや石積みの修繕、地区の行事の支援を行い、棚田保全や景観維持を通して地域の活性化に取り組んでいる。その活動の拠点となっているのが、飛騨市が生活文化体験を目的に設けた交流宿泊施設「板倉の宿 種蔵」だ。古民家を移築し、地域の伝統的な白壁三階建て住居の佇まいを再現して2008年に完成した。

稲作の代わりに、地域では新たな特産品としてミョウガやエゴマづくりに力を入れているが、その後押しをするのが同会の役割でもある。「ミョウガ摘みや山菜採り、魚釣りなど種蔵の季節を感じてもらえる体験を企画・実施しています。3年前からは休耕田を起こして水を張り、平家ホテルを育て、鑑賞できるようにしました。その甲斐あって、年配の方ももちろん、家族連れや外国人の方の宿泊客も増えてきました」と支配人の荒谷さんは成果を語る。そして、近年は新たな名物として「そば」を育てている。

数年前、一軒の板倉の中から1955年頃のそばの袋が見つかった。そのそばを種として使い、会が中心となって集落の新しい名物づくりが始まった。「種蔵は、日本の原風景とも言われるので、写真撮影に訪れる人が多い。そこで、より印象的な景観をつくるために、8月に満開になるように5月に休耕田に種を蒔きます。夏の青い空、緑の山々、そして白いそばの花のコントラストは、まさに絵になる風景です」。

もちろん、そばの魅力は花だけではなく。夏の季節が終わったら一旦、そばを刈り取り、改めて収穫用の種を蒔くと11月には実をつける。「飛騨市で活動する、万波そばの会の皆さんにも協力していただき、毎年11月の第一日曜日に新そばを味わう『そばまつり』を開催しています。県内はもちろん、富山方面からも多くの方が訪れ、集落はとても賑わいます。いろいろな機会での交流が増えることで、高齢者の

方々も元気になってきました」と荒谷さん。集落を熟知する会員のアイデアと取組は、少しずつ新たな活気を生み出している。その昔、追っ手から逃れるようにこの地に住み着いた人たちの末裔は、新しい人たちと広く交流していくことで集落の未来を描く。そして、集落の仲間として、ともに暮らして、新しい家族を心待ちにしている。

## 種蔵「棚田と板倉の風景」と山里文化

飛騨市観光課 ☎ 0577-73-7463  
飛騨市企画課 ☎ 0577-73-7463  
飛騨清見ICから卯の花街道で飛騨市へ車で20分  
飛騨市役所から車で約35分



都市住民との交流拠点としてつくられた宿泊施設「板倉の宿 種蔵」。古民家を利用して建てられている。板倉を模した離れもある。



2012年には、ぎふ清流国体・清流大会の開催を記念し、11年ぶりに13輛全輜の曳揃えが実現。雅やかな圧巻の光景に多くの人々が魅了された。



## 煌びやかな山車と色鮮やかな藤が、 見る人をいにしえの時へいざなう。 羽島が誇る美しき二大祭り

# 美濃のたけはな ふじまつり 竹鼻まつり



【平成24年度認定】  
**明日の宝もの**  
*Asu no Takaramono*  
[羽島市]

昔ながらの街並みや、  
どこか懐かしい風情が漂う  
羽島市竹鼻町。  
普段はのどかな時間が流れる  
このまちは、春の訪れとともに  
豪華絢爛な祭りで賑やかに色づく。

織維のまち羽島の自慢の  
幕で彩られた、絢爛豪華  
な山車をご覧ください

羽島市竹鼻町で400年以上の歴史をもつ八剣神社。その祭礼である美濃竹鼻まつりは、毎年5月2日・3日に開催され、3日に行われる山車の曳行は羽島市の春の風物詩ともいえる存在だ。新緑溢れる八剣神社での豪華な山車の奉納や、街並みを練り歩く様子は、まさに絵巻のような光景。

豪傑で鮮やかな山車は、全13輜。全てが県指定重要有形民俗文化財に指定され、毎年半輜ずつ交互にその勇壮な姿を見せる。山車の側面を覆う大幕と水引、背面を飾る見送りなど、羅紗地に金や銀の糸で刺繍が施された幕類の芸術性の高さに舌を巻く。織維の街・羽島の確かな技術を持った職人たちの技が、長い年月を経た現代

も、歴史を刻みながら残っているのだ。  
山車を曳くたくましい男性の姿、提灯を持って華を添える女性たち、そして祭りに欠かせないお囃子。地元の人たちが守り継いできた伝統文化がひとつになり、今なお祭りを盛り上げている。

漂う甘い香りの先に、  
まるで雲海のように  
咲き乱れる藤

美濃竹鼻まつりが近づき、お囃子やカラクリの練習が行われる4月下旬から5月上旬にかけて、竹鼻別院では「ふじまつり」が開催される。境内に咲き誇る「別院の藤」は、樹齢300年以上といわれ、県指定天然記念物になっている。太さ3メートルという1本幹から、東西に33メートル、南北に15メートルにも広がった枝。たわわに咲いた薄紫色





練習を積んで披露される手踊り(左)やカラクリ(中央・右)など見所はたくさんだ。

上から見る藤は、眼下に広がる雲海のような圧倒的な美しさ。



夜山車曳行。提灯の灯りが山車を照らし、昼間とは全く別の幽玄な世界へといざなう。

**故郷への想い。伝承に欠かせない 伝統に吹き込んだ新しい風**

江戸時代から受け継がれてきた美濃竹鼻まつりだが、少子高齢化による曳き手不足という課題が浮き彫りとなる。また別院の藤も、花を咲かすために欠かせない定期的な剪定やシロアリ被害対策を担う人が高齢化のため減少し、危機に立たされていた。そんな中で立ち上がったのが「NPO 法人羽島の未来を築く会(代表・森充広さん)」だ。2009

の花穂が、藤棚を埋め尽くす光景は、思わず感嘆の声があがるほどの美しさだ。

ふじまつり期間中は、県外からも多くの人が足を運び、藤棚周辺ではお茶の振る舞いや露店でにぎわう。5月3日には「美濃竹鼻まつり・ふじまつり」として「山車」と「藤」の二天スターの共演を見ることが出来る。



美濃竹鼻まつりへの士気を再燃させるきっかけをつくった山車曳きボランティア。

江戸時代から受け継がれてきた美濃竹鼻まつりだが、少子高齢化による曳き手不足という課題が浮き彫りとなる。また別院の藤も、花を咲かすために欠かせない定期的な剪定やシロアリ被害対策を担う人が高齢化のため減少し、危機に立たされていた。そんな中で立ち上がったのが「NPO 法人羽島の未来を築く会(代表・森充広さん)」だ。2009

年、羽島市を明るく魅力あるまちにしたいと有志が集って会を設立し、2012年に特定非営利活動法人化した。若い世代に故郷の祭りを誇りに思ってもらいたい、祭りを行う地元がもっと活気ついてほしい、そういった気持ちから、曳き手ボランティアの募集や、食事をしながらゆっくり祭りを楽しめる場所の提供など、さまざまな側面から祭りの活性化を働きかけている。さらには、これまで二大祭りを支えてきた「竹鼻祭山車保存会」や「竹鼻別院の藤を守る会」などと連携し、伝統の伝承に努め、市民の祭りに対する気持ちを再燃させるきっかけをつくった。このような伝統行事を風化させない取組や、美濃竹鼻まつりの伝統と、歴史的価値の高いまつりの山車13輛が大切に守られていくこと等を理由に、平成24年度には、「明日の宝もの」に認定されるに至った。羽島市が誇る伝統文化は、



2013年には、地元の老舗酒蔵・千代菊の2階を開放。予約制で、お囃子を観覧しながら山車弁当が楽しみ、窓から山車の曳行も眺めることができ好評を博した。



各町の大幕をモチーフにした包み紙、地元の食材を神楽に見立てた色とりどりの料理など、見ても食べても楽しめるおもてなし弁当となった。



これからの未来へと大切に受け継がれていくだろう。

みのたけはな  
**美濃竹鼻まつり・ふじまつり**  
 図 羽島市観光協会(羽島市商工観光課内)  
 羽島市竹鼻町55  
 商工観光課ダイヤルイン  
 ☎ 058-392-9943(内線 2615)  
 図 八剱神社(羽島市竹鼻町3298-1)  
 名鉄「竹鼻駅」から徒歩で約6分  
 名神高速道路「岐阜羽島IC」から車で約10分  
 竹鼻別院(羽島市竹鼻町2802)  
 名鉄「羽島市役所前駅」から徒歩で約5分  
 名神高速道路「岐阜羽島IC」から車で約10分



各山車を飾る豪華な幕は、ぜひ間近で見たい。遠目からの豪華さは違った、繊細な美しさに気づくことができる。



【平成20年度認定】  
明日の宝もの

*Asu no Takaramono*

[ 岐阜市 ]



# かわらまちかいわい 川原町界隈

(岐阜公園周辺地域)

昭和初期まで長良川水運の川湊として栄えた「川原町」は、長良川南詰の東西につながる湊町・玉井町・元浜町の総称。格子のある町屋や美濃和紙などの問屋、黒壁の蔵など、当時の風情を残すノスタルジックな町並みが続く。長良川と金華山を望むこの町の魅力は町を愛する住民によって輝き続けている。

## 川とともに、人とともに 歴史と賑わいを刻むまち

歴史文化と暮らしが  
共生するまちづくりを

された。町内約40世帯の軒下には丸い門灯が灯り、またお正月には手作りの門松が、鵜飼シーズン中には揃いの提灯が町を彩り、訪れる人を迎えてくれる。

岐阜を代表する清流・長良川河畔に佇む川原町。古の趣を伝える日本家屋が並ぶ中に、古民家を活用したカフェやレストラン、雑貨店などが点在し、懐かしさも新しさを感じさせる町並みを楽しむことができる。そんな町並みの保存を目指して、2001年に地元住民の間で「川原町まちづくり会」が発足。2004年には住民8割以上の賛同を得て、建物の高さや景観デザインを規定した「川原町まちづくり協定」が締結



左上/季節の移ろいをさまざまに映し出す長良川と金華山。  
下/川原町界隈を見守るように金華山山頂にそびえたつ岐阜城。



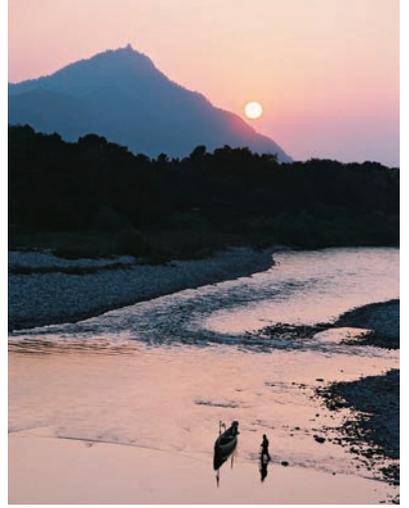
「岐阜市まちを美しくする条例」に基づき、路上禁煙区域に指定されている川原町。いつ訪れても、気持ちよく散策できる町並みが続く。



長良川河畔に続く川原町の家並み。レンタサイクルや岐阜市まちなか案内人のガイドなどを活用して、思い思いに河畔の散策を楽しみたい。



格子のある町屋や材木や和紙などの老舗問屋が並び、川湊の面影を偲ばせる川原町。助成制度による景観整備など、この風景を守ろうという取組が行われている。



## 町ならではのもてなしで 岐阜の情報発信地に

長良川と金華山の双方を楽しめ、岐阜市観光の中心地でもある川原町界隈では、さまざまなイベントが催され、多くの観光客で賑わう。2011年から開催している「高橋尚子杯ぎふ清流マラソン」では、ハーフマラソンコースの一部となった。それを受けて、まちづくり会から7店舗が銘菓や水などを提供し、参加者をおもてなしする。同年秋季には、地元事業主やまちづくり団体、学生などが中心となって岐阜ならではの文化を伝える「長良川温泉泊覧会」を開催。まちづくり会も実行委員会に参加して、プログラムをバックアップした。さらに2012年に行われた「ぎふ清流国体」では、炬火リレーの最終地点に選ばれ、セレモニーを開催。大会中、分火した火を鶴飼乗船待合所に灯して遠来の観光客へPRした。ただ町を見てもらうだけでなく、訪れる人をもてなし、ふれあうことで、川原町は岐阜の魅力を発信する場となっている。

## 長良川を中心とした 見所満載の散策エリア

川原町界隈では、河畔をゆったりと散策できるよう、さまざまな整備が進められてきた。2009年には鶴飼観覧船事務所と待合所に加え、川原町と岐阜公園を結ぶ川原町広場が完成。岐阜公園にも新しい正門と武家屋敷風の総合案内所ができ、川原町と岐阜公園を人が行き来しやすくなった。さらに川を眺めながら長良橋を渡れば、2012年にオープンした「長良川うかいミュージアム」があり、鶴飼の歴史や文化を学ぶことができる。また、お土産にピッタリな「長良川湊ブランド」のサイダーや懐紙なども発売し、話題となっている。多彩な試みで訪れる人を楽しませてくれる長良川周辺エリアは、岐阜の新たなまち歩きスポットとして、今後も注目を集めそうだ。



2012年のぎふ清流国体では、川原町が炬火リレーの最終地点となりセレモニーを開催。高円宮妃や文部科学大臣など要人も出席し、まちづくり会が町を案内するなど、町をあげてのおもてなしイベントとなった。



### 【長良川湊ブランド】

長良川サイダー (250ml)  
鏡岩水源地から汲み上げた長良川の水を使ったサイダー。売上の一部は、長良川の源流を守る活動に役立てられる。  
問合せ先/伊奈波商會  
☎058-262-2250  
<http://www.inabashoukai.com/>



長良川懐紙 其の壺  
～舞妓ごのみ～(1帖30枚入)  
「舞妓が手にして似合うものを」と、作られた懐紙。金華山と長良川をモチーフにした模様がすかしに入っている。  
問合せ先/鳳川伎連  
☎058-265-5887  
<http://housen-giren.com/>

### かわらまちかいわい 川原町界隈

- 岐阜市 観光コンベンション課  
岐阜市神田町 1-11  
岐阜市役所南庁舎 2階  
☎ 058-265-4141 (内線 6231~6234)  
(一財) 岐阜市にぎわいまち公社  
岐阜市神田町 1-11  
岐阜市役所南庁舎 1階  
☎ 058-266-1377
- ☑ JR「岐阜駅」または「名鉄岐阜駅」からバスで約15分「長良橋」から徒歩で約3分  
東海北陸自動車道「岐阜各務原IC」から車で約25分



岐阜が誇る文化資産・長良川鶴飼の魅力を分かりやすく紹介。鶴匠による鶴飼実演ワークショップなども行われている。

長良川うかいミュージアム  
岐阜市長良51-2  
☎058-210-1555  
<http://www.ukaimuseum.jp/>  
料金 大人500円、  
小人(4~15歳)250円  
営業時間  
9:00~19:00(5/1~10/15)  
9:00~17:00(その他の期間)  
休館日 5/1~10/15は無休、  
その他は火曜日

【平成20年度認定】  
明日の宝もの

Asa no Takaramono

[郡上市]



# 郡上鮎

ぐ じょう あゆ

## 全国に名を馳せる日本一のブランド鮎。 岐阜の自然が、美味しさを育む

国内、県内に鮎の産地は数あれど、清流・長良川上流にある郡上市で捕れる鮎は格別だ。一度食べたなら忘れられないその美味しさは、多くの人を魅了し、今や全国に流通している。郡上鮎は、岐阜の豊かな自然が育てた地域の宝もの。



豊かな自然に育まれた郡上鮎は味の良さだけでなく、姿かたちも美しい、まさに「鮎の中の一級品」を物語る。



釣り人が釣った鮎は、漁協に届いてすぐに樽のセイロに並べられて出荷。鮮度と品質へのこだわりが伺える。

### 鮎の味は、川で決まる。 清流の恵みが詰まった 郡上鮎の魅力

大日岳に源を発し、日本を代表する清流のひとつに数えられる長良川。この長良川上流で捕れ、そのおいしさから全国の食通をうならせているのが「郡上鮎」だ。鮎の成魚は川底の石に生えた藻を食べるため、鮎の味は川の味ともいわれている。スイカのような爽やかな香りと、ふわりと上品な身の甘み、ほんのり苦い

らわた…。その全てが一体となって醸し出す美味しさは、長良川が育んだ郡上鮎ならではの。

ブランド鮎として認知度が高まりつつある理由は、徹底した定義づけにある。郡上鮎の定義は、郡上市内の長良川水系の河川において漁獲された天然鮎であること。その中でも出荷の対象となるのは、オトリ鮎を使って釣る「友釣り」により、釣り人によって一匹ずつ釣り上げられたものだけなのだ。

「8月中旬には網漁も解禁となりますが、網にかかった鮎は傷がついて弱ってしまいます。郡上鮎として出荷するには、味だけでなく鮮度や見た目も一級品でなければなりません」と郡上漁業協同組合参事の白滝治郎さん。こういった生産者の誇りと品質へのこだわりが、郡上鮎というブランドを支えている。

夏に入ると、郡上市内の長良川には多くの釣り人の姿を目にする。夕方になると、釣り人たちは郡上漁協



塩焼き、甘露煮、お造りなど、さまざまな料理で天然郡上鮎ならではの格別な美味しさを満喫。中でも尾びれがピンと伸びた塩焼きは、素材の味を堪能できる最高の料理だ。  
(写真は吉田屋の「鮎づくし」)

郡上鮎取扱認定店  
(郡上市内)

- かねさだ  
郡上市八幡町吉野859 ☎0575-63-2800
- 民宿 菊美屋  
郡上市八幡町島谷1082 ☎0575-65-3367
- 吉田屋  
郡上市八幡町殿町160 ☎0575-67-0001
- ホテル郡上八幡  
郡上市八幡町吉野208 ☎0575-63-2311
- 魚寅  
郡上市八幡町新町953 ☎0575-65-3195
- 新橋亭  
郡上市八幡町桜町268-3 ☎0575-65-2729
- 旅館 あさの  
郡上市八幡町大手町817 ☎0575-65-2185
- 田舎の宿 おのそう  
郡上市八幡町小野8-8-1 ☎0575-65-6665
- ラーメン 重栄  
郡上市八幡町福成821-1 ☎0575-67-0025
- 料理旅館 清竜  
郡上市大和町島7119-1 ☎0575-88-2047
- 杉ヶ瀬ヤナ  
郡上市大和町島5338 ☎0575-88-3375
- 勝美屋  
郡上市大和町剣366 ☎0575-88-3333
- 旅館 彦河屋  
郡上市大和町剣278 ☎0575-88-2018
- 味彩  
郡上市大和町剣155 ☎0575-88-3232
- たにや  
郡上市大和町徳永79 ☎0575-88-2055
- 料理旅館 金松館  
郡上市大和町島7016 ☎0575-88-2511
- 喰心坊  
郡上市大和町徳永809-1 ☎0575-88-3281
- レストラン 日高  
郡上市白鳥町白鳥9-3 ☎0575-82-5308
- 民宿 さとう  
郡上市白鳥町向小駄良772-1 ☎0575-82-2609
- 仕出し やまかね  
郡上市白鳥町島1299 ☎0575-82-2426
- だるまや  
郡上市白鳥町白鳥南條原1110-2 ☎0575-82-2057
- いろり料理 さくら  
郡上市白鳥町向小駄良991 ☎0575-82-6390
- あづまや  
郡上市白鳥町白鳥859-1 ☎0575-82-3146
- 彌楼館  
郡上市白鳥町白鳥21-14 ☎0575-82-3988
- さんたバー  
郡上市白鳥町長滝351 ☎0575-85-2468
- 莉安ヤナ  
郡上市美並町白山1184 ☎0575-79-2959
- のどかの味処 みやちか  
郡上市美並町上田2525 ☎0575-79-2160
- 割烹 松屋  
郡上市美並町白山861-1 ☎0575-79-2050
- 川魚料理 はせべ  
郡上市美並町上田286-1
- (有) 愛里  
郡上市明宝畑佐1008 ☎0575-87-2400
- レストラン 芳花園  
郡上市八幡町小野5-15-4 ☎0575-67-0591
- 魚安  
郡上市八幡町島谷1087-1-3 ☎0575-65-2473
- 北城  
郡上市白鳥町白鳥1100-2 ☎0575-82-2562
- 花むら  
郡上市八幡町新町931-2 ☎0575-67-0056
- 郡上八幡 ホテル積翠園  
郡上市八幡町柳町一の平5111-2 ☎0575-65-3101
- 和食房 すえ廣  
郡上市八幡町島谷576 ☎0575-65-5408
- 東屋旅館  
郡上市八幡町城南町293-1 ☎0575-65-2373
- 浅野屋旅館  
郡上市白鳥町白鳥925 ☎0575-82-2052
- 四季の味旬  
郡上市白鳥町中津屋852-1 ☎0575-82-3998
- 道の駅 古今伝授の里やまと  
郡上市大和町剣164 ☎0575-88-2525
- やしろ  
郡上市白鳥町中津屋497-1
- 株式会社 水のまち郡上八幡  
郡上市八幡町殿町166 ☎0575-66-2200
- パブリックシステム株式会社  
郡上市八幡町初瀬1542-1

「日本一の鮎の里・郡上」を  
目指して

豊富なミネラルを含み、流れが速い長良川上流で育った鮎は、身が引き締まり、味も香りも上質。その美味しさは、2008年に開かれた「第

11回清流めぐり利き鮎会」で、全国52河川・3183匹の中から、栄えあるグランプリを獲得し、名実ともに日本一の鮎であることを証明した。全国的に郡上鮎の知名度が上が

る上で欠かすことのできない存在となった。

「郡上鮎」の名が全国に広がり、需要は高まるばかり。しかし、釣りが釣り上げるからこそ郡上鮎。需要に応えるための安定供給が課題となる。釣り人は数多くいるが、重要なのは長良川がいい鮎を育てられる川であり続けること。郡上漁協では、河川の美化清掃に加えて、2010年から岐阜県や郡上市、森林組合の協力を得ながら、長良川源

流部の森林に植樹活動を行っている。こうした環境保護活動や天然遡上鮎に関わる活動は徐々にではあるが広がりをみせている。「川にいい鮎がたくさん棲み、捕れること。それが何よりも大切。そのための努力は惜しみたくないんです」と白滝さん。この確固たる信念があればこそ「郡

の事務所に一日の釣果を手渡しに集まってくる。生きたままの鮎を、「特大」「大」「中」とサイズごとに仕分け、それを記した伝票を受け取り帰路につく。集まった鮎はすぐに氷とともにセイロに入れ、高い鮮度を保ったまま全国へ発送。翌朝の市場で競りにかけられ、ついた値段が後日釣り人に支給される仕組みだ。このシステムによって、高価な釣り具を必要とする釣り人にも少なからず収入があり、釣りに対する意欲をさらに高める。その中心となる郡上漁協は、郡上鮎の集荷・発送業務を通じて、品質管理と安定供給という重要な役割を担っているのだ。

認定店」制度を開始。郡上市内を中心とした50余りの店舗を登録し、新鮮な郡上鮎料理が楽しめるお店を観光客に紹介している。これらの取り組みによって、郡上鮎をより多くの人に知ってもらっただけでなく、郡上の夏をより一層盛り上げることへとつながり、郡上鮎はもはや郡上を語

る上で欠かすことのできない存在となった。

「郡上鮎」の名が全国に広がり、需要は高まるばかり。しかし、釣りが釣り上げるからこそ郡上鮎。需要に応えるための安定供給が課題となる。釣り人は数多くいるが、重要なのは長良川がいい鮎を育てられる川であり続けること。郡上漁協では、河川の美化清掃に加えて、2010年から岐阜県や郡上市、森林組合の協力を得ながら、長良川源

流部の森林に植樹活動を行っている。こうした環境保護活動や天然遡上鮎に関わる活動は徐々にではあるが広がりをみせている。「川にいい鮎がたくさん棲み、捕れること。それが何よりも大切。そのための努力は惜しみたくないんです」と白滝さん。この確固たる信念があればこそ「郡

の事務所に一日の釣果を手渡しに集まってくる。生きたままの鮎を、「特大」「大」「中」とサイズごとに仕分け、それを記した伝票を受け取り帰路につく。集まった鮎はすぐに氷とともにセイロに入れ、高い鮮度を保ったまま全国へ発送。翌朝の市場で競りにかけられ、ついた値段が後日釣り人に支給される仕組みだ。このシステムによって、高価な釣り具を必要とする釣り人にも少なからず収入があり、釣りに対する意欲をさらに高める。その中心となる郡上漁協は、郡上鮎の集荷・発送業務を通じて、品質管理と安定供給という重要な役割を担っているのだ。

認定店」制度を開始。郡上市内を中心とした50余りの店舗を登録し、新鮮な郡上鮎料理が楽しめるお店を観光客に紹介している。これらの取り組みによって、郡上鮎をより多くの人に知ってもらっただけでなく、郡上の夏をより一層盛り上げることへとつながり、郡上鮎はもはや郡上を語

る上で欠かすことのできない存在となった。

「郡上鮎」の名が全国に広がり、需要は高まるばかり。しかし、釣りが釣り上げるからこそ郡上鮎。需要に応えるための安定供給が課題となる。釣り人は数多くいるが、重要なのは長良川がいい鮎を育てられる川であり続けること。郡上漁協では、河川の美化清掃に加えて、2010年から岐阜県や郡上市、森林組合の協力を得ながら、長良川源

流部の森林に植樹活動を行っている。こうした環境保護活動や天然遡上鮎に関わる活動は徐々にではあるが広がりをみせている。「川にいい鮎がたくさん棲み、捕れること。それが何よりも大切。そのための努力は惜しみたくないんです」と白滝さん。この確固たる信念があればこそ「郡

の事務所に一日の釣果を手渡しに集まってくる。生きたままの鮎を、「特大」「大」「中」とサイズごとに仕分け、それを記した伝票を受け取り帰路につく。集まった鮎はすぐに氷とともにセイロに入れ、高い鮮度を保ったまま全国へ発送。翌朝の市場で競りにかけられ、ついた値段が後日釣り人に支給される仕組みだ。このシステムによって、高価な釣り具を必要とする釣り人にも少なからず収入があり、釣りに対する意欲をさらに高める。その中心となる郡上漁協は、郡上鮎の集荷・発送業務を通じて、品質管理と安定供給という重要な役割を担っているのだ。

認定店」制度を開始。郡上市内を中心とした50余りの店舗を登録し、新鮮な郡上鮎料理が楽しめるお店を観光客に紹介している。これらの取り組みによって、郡上鮎をより多くの人に知ってもらっただけでなく、郡上の夏をより一層盛り上げることへとつながり、郡上鮎はもはや郡上を語

る上で欠かすことのできない存在となった。

「郡上鮎」の名が全国に広がり、需要は高まるばかり。しかし、釣りが釣り上げるからこそ郡上鮎。需要に応えるための安定供給が課題となる。釣り人は数多くいるが、重要なのは長良川がいい鮎を育てられる川であり続けること。郡上漁協では、河川の美化清掃に加えて、2010年から岐阜県や郡上市、森林組合の協力を得ながら、長良川源

高まる需要に応えるために  
鮎、川、山を守り育てる

「郡上鮎」の名が全国に広がり、需要は高まるばかり。しかし、釣りが釣り上げるからこそ郡上鮎。需要に応えるための安定供給が課題となる。釣り人は数多くいるが、重要なのは長良川がいい鮎を育てられる川であり続けること。郡上漁協では、河川の美化清掃に加えて、2010年から岐阜県や郡上市、森林組合の協力を得ながら、長良川源

「清流めぐり利き鮎会」の  
グランプリ証明書。



ぐじょうあゆ  
郡上鮎

郡上漁業協同組合  
郡上市八幡町有坂1238 ☎0575-65-2562  
http://www.gujo-fc.or.jp/

☒ 東海北陸自動車道「郡上八幡IC」から車で約5分



「子どもたちに、今よりも  
いい長良川を残したい」と  
郡上漁業協同組合参事  
の白滝治郎さん。



郡上市内を流れる長良川には、多くの釣り人が長い竿を垂らす姿が見られる。友釣りは、自分の縄張りに侵入した鮎に体当たりをするという、縄張り意識の強い鮎の習性を生かした釣り方だ。



## 地場産業を守り伝えたい。 職人の思いと技を結集！

木曾川最上流の川湊として栄えた八百津町は、昔から酒や酢、醤油などの醸造業や食品加工業が根付いていた。中でも、小麦粉・卵・砂糖を主原料とした素朴な味わいの「八百津せんべい」は、甘いものが少なかった戦後から愛され続けてきた代表的なお菓子。今もほとんどが手作業で作られ、小麦粉原料のお菓子としては全国一の出荷量を誇る。こうした八百津発のお菓子をPRし、歴史ある味わいでまちを元気にしようと、町内の製菓会社2社と和菓子屋5店舗が一致団結。せんべいグループ・和菓子グループそれぞれが、和菓子離れが進む若い世代をターゲットに、新商品開発に乗り出した。

## 懐かしくも新しい 現代のおやつが続々登場

せんべいで作った皿にプチせんべ

企業のノベルティとしても人気のQRコードせんべい。裏面に会社ロゴなども入れることができる。

いをのせた「サラせん」は、見た目の可愛さと手軽さで、今やせんべいグループの大ヒット商品。ココア・玄米・抹茶などに加え、ゆず・ごぼうなど新たな味も次々に商品化され、現在約20種類が揃う。さらに、焼印でQRコードを入れたせんべいも登場。ユニークな自社PRにと、企業からの問合せも多い。また、せんべいグループは、新たな商品開発はもちろん、伝統産業をもっと多くの人に知ってもらうため、イベントでの「ジャンボせんべい」の実演や、地元小学校の職業体験、工場見学にも積極的に取り組んでいる。

一方、和菓子グループは、バタークリームや生クリームを加えた滑らかな栗クリームを餅で包んだ「栗いむ大福」を開発。「栗きんとん」に並ぶ新たな看板商品となった。あまりの人気に、一部店舗では通年販売もスタート。5店舗がそれぞれ配合や材料に工夫を凝らし、独自の味を出しており、食べ比べる楽しさも好評だ。

# 伝統の味をブラッシュアップ！ ココロとまちを元気にする 新テイストのおやつたち

# 八百津のおやつ

八百津町は、食品加工業が発展した食のまち。特に「せんべい」と「和菓子」は、二大地場産業だ。この二大産業を担う職人たちが、現代のテイストを取り入れた新たなおやつづくりに挑む「八百津のおやつ」プロジェクト。おやつでまちの魅力を発信するこの取り組みは、今、産業を超えて町全体を活性化する動きに発展し始めた。



和菓子グループ5店舗の「栗いむ大福」が1つずつ入った詰合せセット。  
※イベント限定販売



八百津町

【平成20年度認定】  
明日の宝もの

Asu no Takaranono

[ 八百津町 ]



さらには、せんべいグループ・和菓子グループが連携した商品開発も進んでいる。せんべい製の皿でいただく「栗きんアイス」は、卵と生クリームをふんわりと泡立てた口溶けの良いアイスとパリッとしたせんべいが絶妙にマッチしている。栗のアイスは八百津せんべいの組み合わせは、真正銘ここだけのオリジナル。『ここでもしか味わえないおやつ』が、まちの新たな魅力となっている。

## 材料から製造まで 真の「メイドイン八百津」 をめざす

職人たちの挑戦によって、日々進化している八百津のおやつ。この動きは町民を巻き込み、新たな展開が始まった。その一つが、できる限り地元の食材を使ったお菓子を作るため、八百津産の栗を増やそうという取り組みだ。11月に行われる産業祭では町民へ栗の苗木を無料配布。また、町内で栽培した栗を和菓子店に

販売すると、1キロあたり1000円の補助金を出す制度もスタートした。定期的に栗の木の剪定や接ぎ木の講習会も開き、農家はもちろん地元住民も栗の生産に気軽に参入できるようサポート。講習会は毎回定員オーバーになるほどの盛況ぶりだ。和菓子店側も「お菓子づくりに適した栗と一緒に考えながら、八百津の栗を増やしていけば、本当の意味で八百津産のおやつができる」と、受け入れ態勢は万全。おやつづくりは、まちを盛り上げる新しい産業の発展にもつながりそうだ。



日の丸製菓では、平日9～15時の間で工場見学が可能（前日までに要予約・無料）。

町内で行われる産業祭をはじめ、県内外のイベントで直径1メートルほどのジャンボせんべいを焼いて振る舞う。



剪定や害虫の駆除法を学ぶ研修会。他にも栗の木の育て方など、年間を通して講習会が行われている。



せんべいの皿にのった「栗きんアイス」は亀喜総本家で販売中。



皿ごとせんべいの「サラせん」。プチせんべいは約20種類と豊富な品揃え。



### 【新商品開発グループ】八百津せんべい職人

- 有限会社 伊藤製菓 八百津町野上1303 ☎ 0574-43-0540 <http://www.itoseika.jp/>
- 株式会社 日の丸製菓 八百津町八百津8342-2 ☎ 0574-43-1017 <http://www.e-oyatsu.com/>  
[町の駅「天晴」八百津せんべい本舗]八百津町野上1041-8 ☎ 0574-43-1117

### 【新商品開発グループ】八百津生菓子若手職人

- 有限会社 亀喜総本家 八百津町八百津3921-1 ☎ 0574-43-0147 <http://www.nande.com/kameki/>
- とらや製菓舗 八百津町八百津2924-2 ☎ 0574-43-0258 <http://www.yaotsu-toraya.com/>
- 有限会社 緑屋老舗 八百津町八百津4096-1 ☎ 0574-43-0144 <http://www.midoriyarouho.com/>
- 梅屋 八百津町八百津4067-5 ☎ 0574-43-0156
- 有限会社 藤乃屋 八百津町久田見2839 ☎ 0574-45-1892 <http://www.fujinoya.net/>  
[町の駅「天晴」VANT SOLEIL]八百津町野上1041-8 ☎ 0574-43-8108

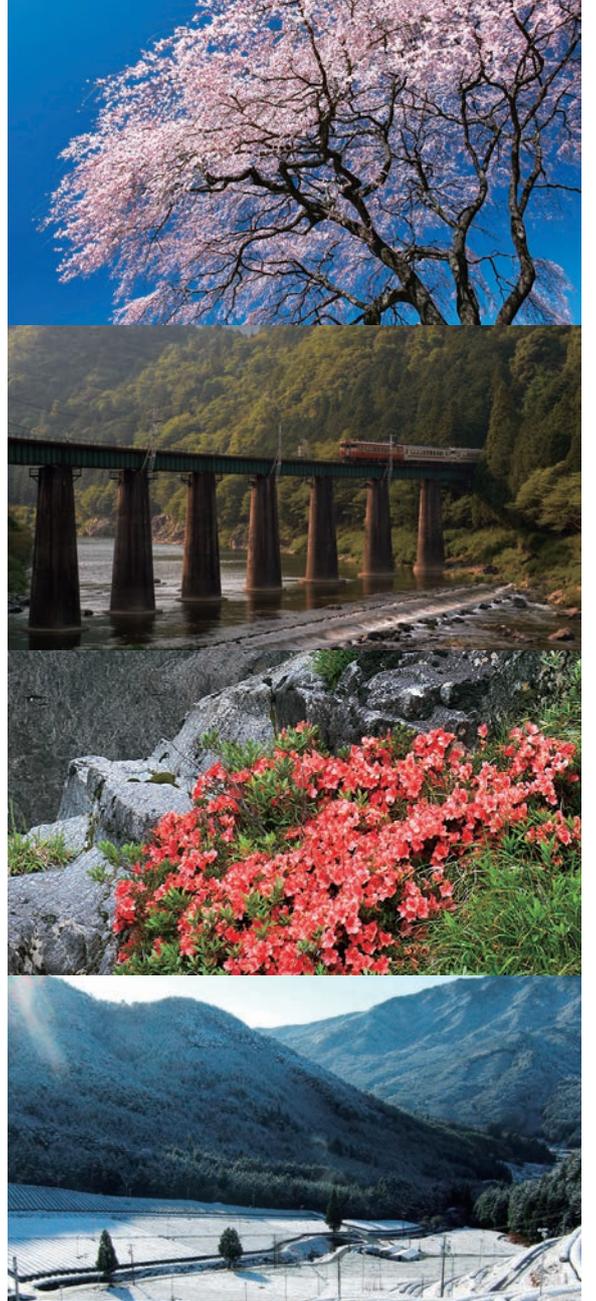
## やおつ 八百津のおやつ

- 八百津町商工会  
八百津町八百津3800-4  
<http://www.yaotsu-net.com/>  
☎ 0574-43-0266
- 名鉄広見線「明智駅」から  
YAOバスで約25分  
東海環状自動車道  
「可見御嵩IC」から車で約20分



八百津せんべいをはじめ、八百津の特産品が揃う町の駅「天晴」。





いざ、地元愛が育む”おもてなしの道“へ  
景色・食・文化を楽しむスロードライブ

# 美濃白川 四季彩街道

飛騨川の流れて沿って、飛騨・美濃を結ぶ国道41号。

2008年に日本風景街道に認定された

「美濃白川四季彩街道」だ。

地元の人々のたゆまぬ努力によって美しい姿が保たれるこの道は、

飛騨川の絶景とともに地元が誇る食や文化を体感できる

イベントやスポットに出会うことができる。

ゆつくりと車で巡るもよし、

降りてじつくりと町を楽しむもよし。

次々に登場する趣向を凝らしたおもてなしが、

訪れる度に新たなこの地の魅力を教えてくれるはずだ。



【平成21年度認定】

明日の宝もの

*Asu no Takaramono*

〔白川町〕

町民の手で生まれ変わった  
誇るべき絶景を愛でる道

飛騨川の清流と雄大な山々の自然に囲まれて、その名のとおり四季折々の彩りを楽しむことができる「美濃白川四季彩街道」。しかしこの道が、以前は生い茂る木々に視界を遮られ、ゴミの投棄に悩まされていたことをご存知だろうか。そうした状況を改善しようとした上がったのが、街道沿いの住民や企業の人々。2006年頃からボランティア組織「美濃白川の景観を守る会」を発足し、定期的に枝の伐採や清掃活動を開始。その甲斐あって、飛水峡周辺にさしかかると視界が開け、飛騨川の絶景が



道の駅「美濃白川」ピアチェーレでは、館内の工房で手作りされた白川ハムをはじめ、白川町ならではの美食や土産品が並ぶ。2012年には温泉施設もオープン。



お茶栽培の北限ともいわれ、上質で美味しいと評される美濃白川茶。2008年には地域団体商標に登録され、翌年には川沿いの茶畑での茶摘み風景をイメージしたロゴが完成。さらに、美濃白川茶を10倍程度に濃縮した「なん茶こりゃ」、お茶に炭酸を合わせた「白川茶イダー」、美濃白川茶お茶うけコンテストで入賞し商品化された「ティッキー」など、白川茶を使った商品が次々と開発されている。

見られるようになった。地元の人々による取り組みが続けられるにつれ、ドライバーの意識も徐々に向上。現在も美しい街道が保たれている。また2013年5月には、白川橋が見られるビューポイントとして有名なJR白川口駅に、新たな観光案内所と売店がオープン。列車を利用する人はもちろん、街道ドライブの合間に立ち寄れる新たなスポットとして、注目を集めている。

地元の美味を求めて  
多彩な食のイベントへ

四季彩街道のコンセプトは「スロードライブ・スローフード・スローライフ」。その中でも街道近くにある

2つの道の駅「美濃白川」ピアチエーレ」「清流白川クオーレの里」では、白川町の食を味わえるイベントが数多く催されている。2013年5月には、「清流白川クオーレの里」で可茂地域のご当地グルメを発掘する「第4回かも1グランプリ」を開催。白川町からも観光協会をはじめ多くの店や団体が出店した。出店料理は町内の「かも椀認定店」で味わうことができる。

また「美濃白川」ピアチエーレでは、「ほお葉寿司フェスタ」や「新茶まつり」などのイベントのほか、手揉み茶や、繭で花をつくるまゆ花、羊毛を糸にする手つむぎなどの実演を開催。白川の食や文化を身近に感じられるイベントや地元グルメを目当てに、車を走らせるのも楽しみのひとつだ。

### 町の歴史や文化を伝えたい おもてなしは街道を越えて

街道を走り、食や景色を楽しむだけでなく、町に滞在してそこに息づく暮らしや魅力を体感してもらいたい。そんな思いから、町では街道から街中へと観光客を導く新たな企画に挑み始めた。2011年にスタートしたモニターツアーでは、特産の白川茶の茶摘み・手揉み体験や、黒川地区のトマト狩り、隠居山観音33カ所巡りなどを開催。参加者にはアンケートに協力してもらい、次の企画へと

つなげてきた。2012年秋には、笹平高原でのピザ作りとチーズの燻製体験や、佐見川峡の紅葉と囲炉裏料理を堪能するツアーが大好評。こうしたツアーは観光客が白川町の歴史・文化に触れるだけでなく、地元住民とのふれあいを生み、町の人々にとっても観光への意識を高める良い機会となっている。四季彩街道と同様、地元の人々が磨きあげる新たなおもてなしによって、町はこれからも輝きを増し続けていくことだろう。



上/第4回かも1グランプリで出品された「どろんももんち」。黒川地区で飼育される「奥美濃古地鶏」と薬を一切使わず育てた「あんしん豚」を使用し、食べると中から地元三川産の味噌を使った甘い味噌だれが出てくる。

下/ピアチエーレ出店の「豆腐ハンバーグ 豆の力でお味噌れ丼」。白川産大豆の豆腐を使用し、甘めの味噌ダレとわさびでいただく。



2012年10月にイタリア直輸入の釜で焼くピザづくり、11月には佐見川沿いの渓谷での紅葉見学と、2回のツアーを開催。



JR白川口駅にできた観光案内所。白川町の特産品を購入できる売店は、駅で列車を待つ間に本が読める「立ち読みコーナー」なども併設。



### 美濃白川四季彩街道

白川町観光協会 加茂郡白川町河岐715 ☎ 0574-72-1311  
http://kankou.town.shirakawa.gifu.jp

JR「白川口駅」下車すぐ  
東海環状自動車道「美濃加茂IC」から車で国道41号線を北へ約40分



1926年に架けられた鋼製の吊橋「白川橋」は全国土木遺産にも認定された町のシンボル。



四〇〇米」の看板があり、この辺りからは石垣が見えてくる。

さらに進み、「本丸まで二〇〇米」の看板を通り過ぎると、「竜神の井」「霧ヶ井」などの井戸が現れる。かつて城内には17にも及ぶ井戸があったとのこと。現在も10数個の井戸が水をたたえている。やがて到着する本丸では、見事な六段積み石垣も見ることが出来る。

2013年、二次元コード付きの観光案内板が完成。携帯電話で二次元コードを読み取ると、地元中学生によるガイド動画が流れる仕組みになっている。二次元コード付き案内板は、本丸や土岐門、追手門、休憩

所など10カ所に設置されているので、ぜひチェックしてほしい。

### 間口が狭く奥に広い家屋などに 当時の暮らしぶりを見る

国の伝統的建造物群保存地区に指定される岩村城下の町並みは、往時の面影をとどめた味わい深い旧家が軒を連ねている。江戸時代から続く武家屋敷や商家などが並び、特に本通りの家屋は、間口が狭いものの奥に広く、京都の古い商家などと共通した特徴がある。これは京都などに見られた「間口税」同様に、岩村の城下町でも間口が広いと課税率が高くなったため、節税対策としてなされたものといわれており、現在にその姿を伝えている。

「天正疎水」も、江戸時代の名残をとどめる興味深い風景。今のようには不燃材や防火材などが開発されていない時代、最も恐れたのは火事である。防火、生活用水として、街中に計画的に水路をめぐらせて利用したのである。また、木村邸の裏側の路地では、「なまこ壁」も見ることが出来る。壁の保全や火災の延焼を防ぐことを目的に、表面に平らな瓦を斜めに並べ貼り付けたもので、継ぎ目を漆喰で固めた風情のある景観を残している。

### 電線の地中埋設化が完了し 景観の質が向上

2013年には本通りの電線の地中埋設化が完了した。すっきりした雰囲気になった町並みは、観光客からも「城山が近く見えるようになった」という声も聞かれている。城へと続く一本の坂道の両側には懐かしい雰囲気を感じる店が並び、のどかな空気が流れる。商店の多くは地元の人たちも日常的に利用するので、飲食、衣料品、生活雑貨、貴金属、漬物、酒、カステラなどを扱うお店が昔ながらの雰囲気のまま商いをしている。景観の質が向上した城下町で、ゆったりと買い物や休息を楽しみたい。



電線がなくなったことで、城山も見やすくなった。



城下町では写真の造り酒屋やカステラ店が人気だ。



上/造り酒屋の中庭を今も流れる「天正疎水」。下/城下町の裏通りにある「なまこ壁」も、昔の風情を伝えてくれる。

「工芸の館・土佐屋」では、江戸時代から続く紺屋の建物を一般公開している。



### 岩村城跡と岩村城下町

☑ 恵那市観光協会岩村支部

恵那市岩村町263-2

☎ 0573-43-3231

☑ 明知鉄道「岩村駅」下車すぐ

中央自動車道「恵那IC」から車で約20分



# じまんの原石ダイジェスト

Digest of Jiman no genseki

岐阜圏域

## 岐阜城パノラマ夜景

23年度

所在地 岐阜市

金華山と岐阜城は、岐阜市のシンボル。標高329mの頂上から見える360度の美しい夜景を見るために、県内外から多くの人が訪れます。



## 羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館

21年度

所在地 羽島市

羽島市映画資料館では、大型映写機や新旧の映画ポスターを常設展示しており、年4回の企画展や「映画のつどい」などでは、懐かしい映画を観ることもできます。



## 各務原キムチで都市おこし

20年度

所在地 各務原市

韓国春川市との姉妹都市交流を契機に、各務原の野菜を使ったキムチによる「まちおこし」プロジェクトが平成17年からスタートしました。



## 柿(伊自良連柿)

20年度

所在地 山県市

山県市伊自良地域では、「伊自良大実」と言われる渋柿を3個づつ串に刺し、縦に10列つないで干した「連柿」づくりが伝統的に行われています。



## 柿(富有柿)

20年度

所在地 瑞穂市

甘柿を代表する富有柿は、瑞穂市が発祥の地と言われており、1000以上ある品種の中で最も多く栽培され、「柿の王様」と賞賛されています。



## 柿(おぶくろ柿(袋柿))

20年度

所在地 本巣市

富有柿の中でも、夏に1つ1つ丁寧に紙袋をかぶせ、完熟させて栽培する「袋掛富有柿」は、糖度が増し色も赤くなり最高級の品質を誇ります。



## 木曽川凧揚げ大会と木曽川エリア

20年度

所在地 笠松町、岐南町

河川環境楽園に隣接する木曽川河川敷では、毎年1月に「親子凧あげ大会」が開催され、岐南町特産の「徳田ねぎ」入り豚汁も振る舞われています。



## 「おちよぼさん」門前町

20年度

所在地 海津市

日本三大稲荷の一つに数えられる千代保稲荷神社・通称「おちよぼさん」は年間200万人の参拝者が訪れます。



## ベーめん

20年度

所在地 海津市

海津市産の「美濃ハツシモ米」を原料とした、モチモチでコシがある食感の米粉麺。うどん、そばに並ぶ新しい麺として今後の普及が期待されています。



## 谷汲門前町

20年度

所在地 揖斐川町

谷汲山華嚴寺の参道両側に旅館、飲食店、土産物店など約50店が建ち並ぶ門前町です。昔の賑わいを取り戻すために店主らが様々なイベントや町並み整備を行っています。



## 徳山ダム

20年度

所在地 揖斐川町

総貯水量6億6千万トンを誇る日本一のロックフィルダムです。周辺には、広大で美しい自然が残っており、新たな観光拠点として期待されています。



西濃圏域

# じまんの原石ダイジェスト

Digest of Jiman no genshiki

西濃圏域

## 薬草

20年度

所在地 揖斐川町

揖斐川町の西南端に位置する伊吹山は薬草の宝庫と言われており、春日地域では薬草風呂や薬草料理、薬草染めなどに利用されています。



## 池田山

23年度

所在地 池田町

東海地方を代表する夜景の名所として有名な池田山を、山麓一帯の他の観光資源と一体的に売りに出すことで、ブランド価値をより一層高められます。



中濃圏域

## 刃物ミュージアム回廊

21年度

所在地 関市

「関鍛冶伝承館」「岐阜県刃物会館」「カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアム」が近接し、鎌倉時代から現代に至る刃物の歴史と伝統を学ぶことができます。



## まちの名物つるむらさきうどん

21年度

所在地 関市

つるむらさきうどんは、無農薬栽培にこだわり栽培された薬草「つるむらさき」を練り込んだもので、カルシウム、鉄分、カロチンなどの栄養豊富なうどんです。

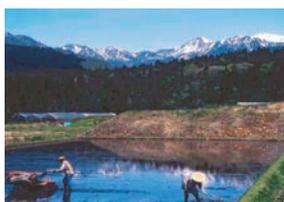


## 神と仏の里いとしろ

20年度

所在地 郡上市

郡上市石徹白地区には、豊かな自然と白山信仰の歴史に育まれた特異な生活文化や文物、峠道により隔絶された美しい穏やかな農村景観が広がっています。



## 食品サンプル

20年度

所在地 郡上市

郡上市に所在するいわさきグループが食品サンプルの全国シェア5割を占めており、現在ではサンプルの製造体験も楽しめます。

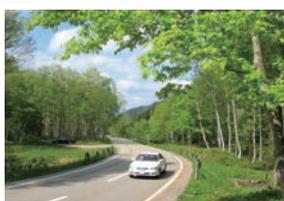


## 飛騨美濃せせらぎ街道

23年度

所在地 郡上市・高山市

飛騨高山と郡上八幡を結ぶ重要な街道であり、街道沿線の行政と住民が協働で取り組む保全活動の結果、四季折々の色鮮やかに移り変わる感動的な景観が楽しめます。



東濃圏域

## 美濃焼と日本酒の融合「美濃陶醉」

20年度

所在地 多治見市

多治見市の特産品である美濃焼と、笠原町を代表する酒「三千盛」を融合させた新商品です。



## 美濃焼窯場めぐり

21年度

所在地 多治見市、土岐市

壱の市之倉、タイルの笠原、とっくりの下石、どんぶりの駄知の美濃焼産地の4工業組合による「陶器まつり」が毎年秋に行われています。



## 笠原のタイル

21年度

所在地 多治見市

大正時代に始まる旧笠原町のモザイクタイル生産は生産高全国一を誇り、また、クールアイランドタイルなどの環境対応型タイルの開発にも取り組んでいます。



## こころのふるさと「虎溪山地区」

23年度

所在地 多治見市

700年余の歴史を誇る禅宗の修行寺「虎溪山永保寺」と、対照的な西洋の宗教施設「多治見修道院」を中心に、地元市民の手による観光振興の取組が進められています。



# じまんの原石ダイジェスト

Digest of Jiman no genseki

東濃圏域

## 清流付知峡で自然浴

23年度

所在地 中津川市

「森林浴の森100選」や「岐阜県名水50選」「飛騨・美濃紅葉33選」にも選ばれた自然豊かな清流で、滝めぐりをはじめ、キャンプ、釣り、川遊び、ウォーキング等の自然体験メニューを複合的に楽しむことができます。



## 山岡細寒天と恵那山麓寒天豚

21年度

所在地 恵那市

山岡細寒天は、地域団体商標登録第1弾。その製造に利用した天草等を含む飼料で飼育した恵那山麓寒天豚は、やわらかく、コクと甘味を堪能できます。



## 櫻堂薬師

23年度

所在地 瑞浪市

平成24年に開基1200年を迎えた由緒ある古刹です。“ふるさとこのじまん”として長い間、地域の人の手で大切に守り続けられています。



## 温故知新 大正100年への誘い

20年度

所在地 恵那市

大正元年から百年目にあたる平成23年、日本大正村がある恵那市では、記念事業を開催。大正時代のモダンでハイカラな世界を再発見できる場所です。



## 串原の布ぞうり

23年度

所在地 恵那市

毎年開催される「布ぞうりコンテスト」に集まる多くの応募作品の売上金で、希少な恵那市の花「ささゆり」の増産に取り組むなど、布ぞうりを通じた地域活性化と全国へ情報発信を行っています。



## 土岐市の窯元めぐり

20年度

所在地 土岐市

焼き物の里として長い歴史をもつ土岐市には、数多くの窯元が市内に点在しており、工房を公開しています。



## ふるさと体験飛騨高山

20年度

所在地 高山市

飛騨高山の豊富な地域資源を活かし、「農業体験」「食文化体験」「生活文化体験」などグリーン・ツーリズムの取組が行われています。



## 東山寺町と文化財めぐり

21年度

所在地 高山市

京都の東山を模して作られた東山寺町には、2つの神社と寺院群が立ち並び、高山の古い町並みに続く新たな観光スポットとして注目を集めています。



## 飛騨美濃せせらぎ街道

23年度

所在地 高山市・郡上市

飛騨高山と郡上八幡を結ぶ重要な街道であり、街道沿線の行政と住民が協働で取り組む保全活動の結果、四季折々の色鮮やかに移り変わる感動的な景観が楽しめます。



## 龍の瞳

20年度

所在地 下呂市

下呂市で生まれた新品種米で、抜群の食感の良さが特徴です。平成18年の「第8回全国米・食味分析鑑定コンクール」にて最優秀の総合金賞を受賞しました。



## 鶏ちゃん

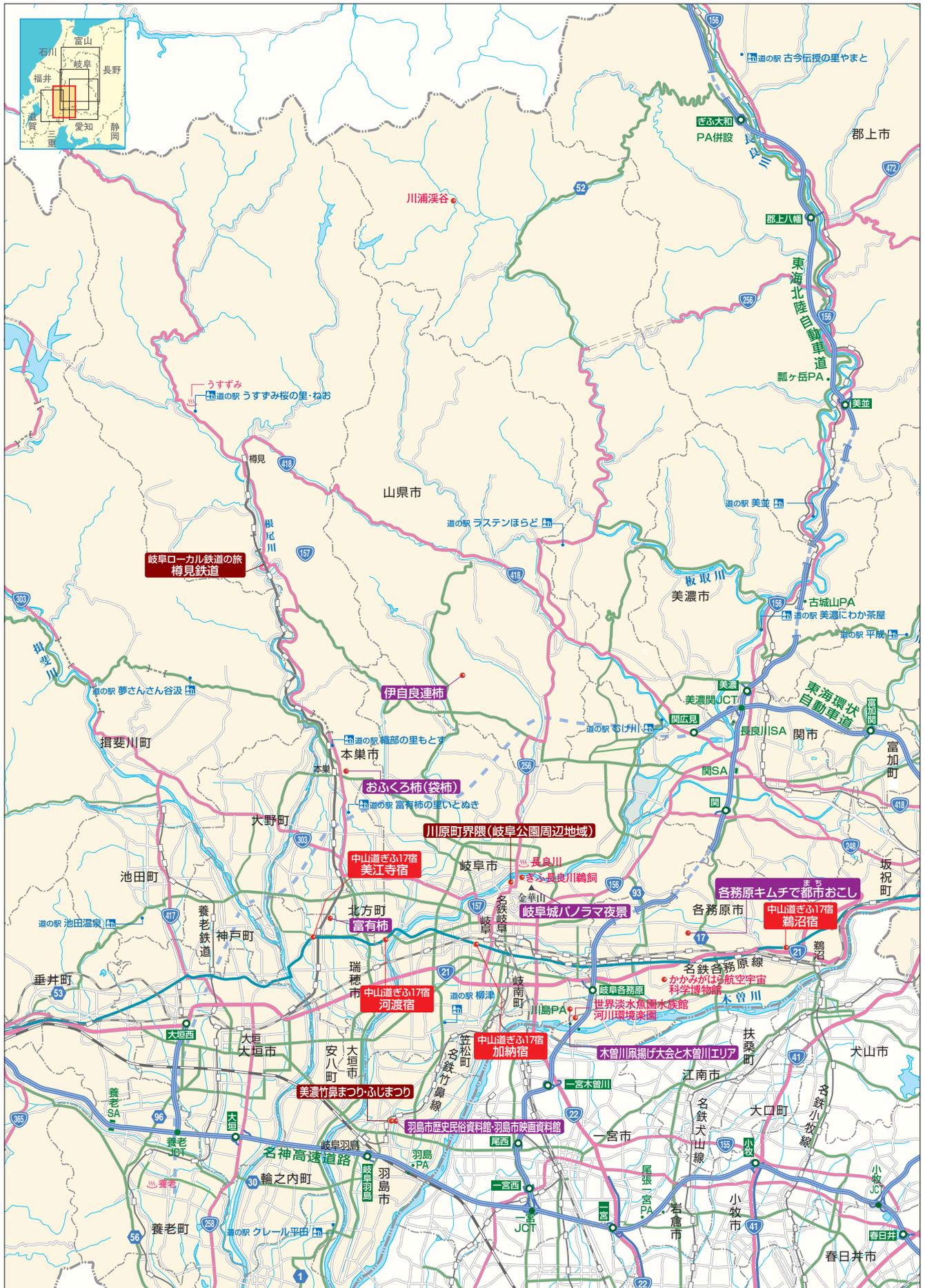
20年度

所在地 下呂市

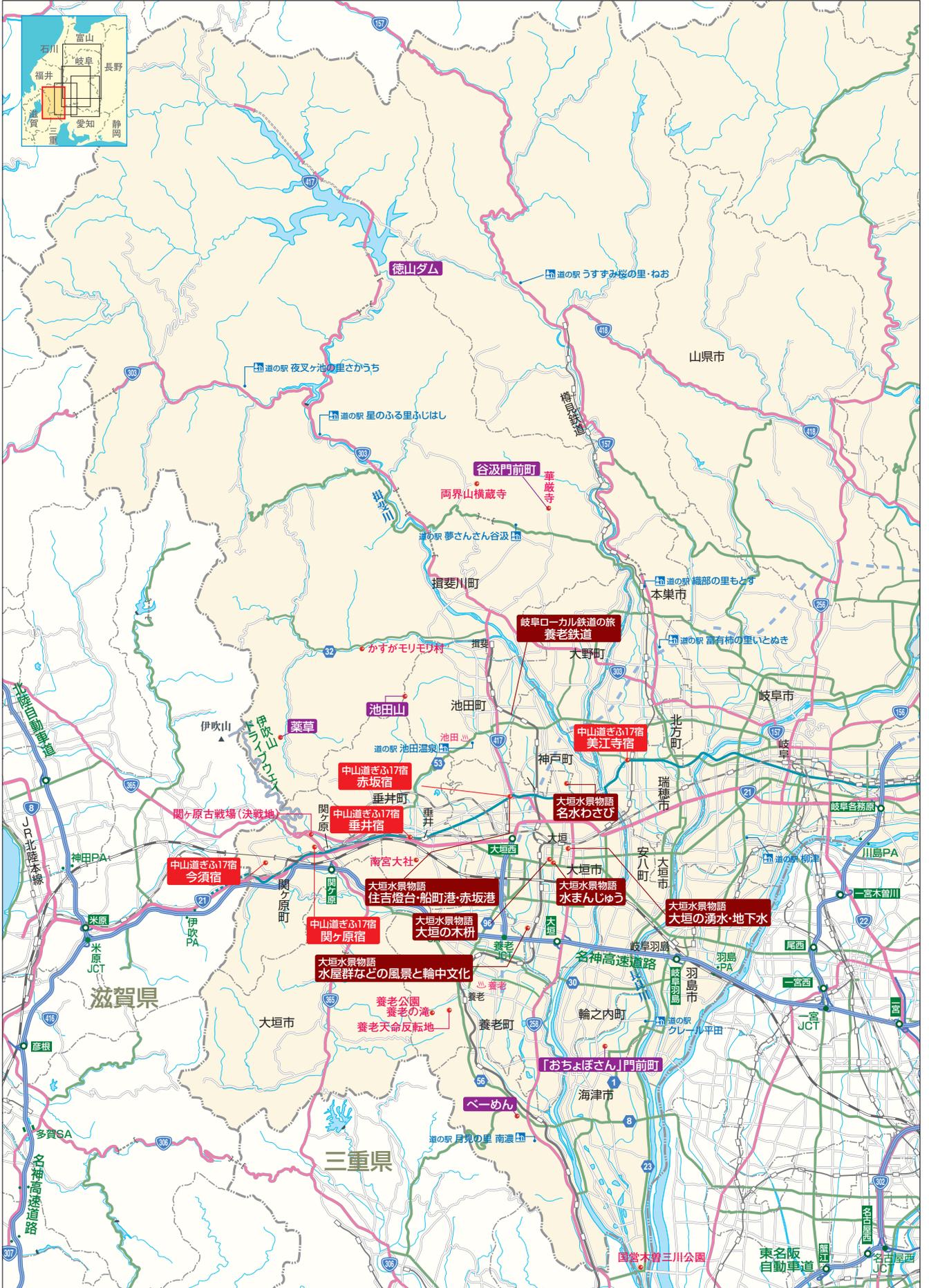
鶏肉とキャベツに特製のタレを絡めて、鉄板やジンギスカン鍋などで焼きながら食べる下呂名物のご当地グルメで、全国からリピーターが押し寄せています。



飛騨圏域

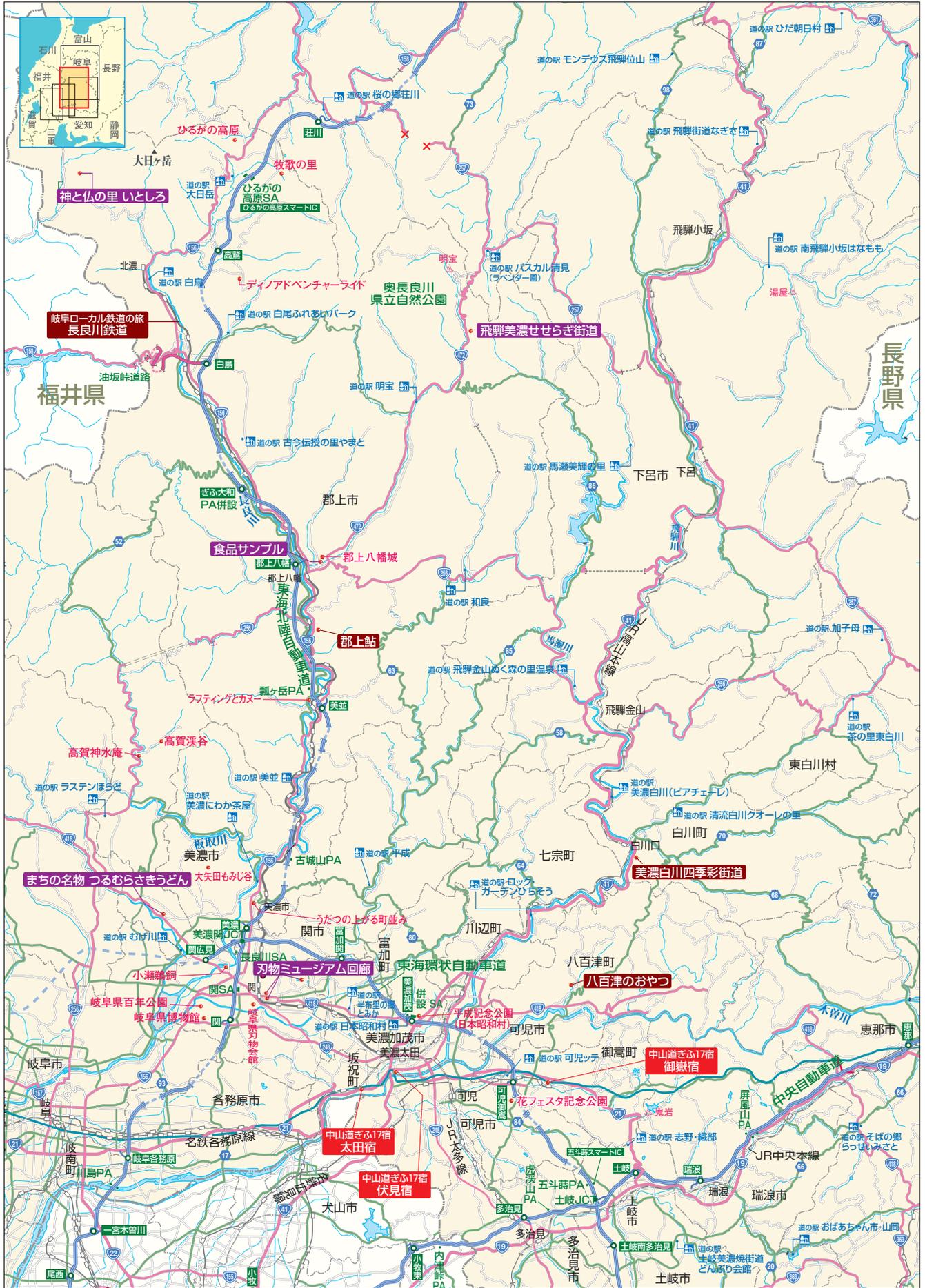


- 岐阜の宝もの
- 明日の宝もの
- じまんの原石
- 道の駅
- 中山道
- 温泉
- 高速道路
- 有料道路
- 国道
- 主要地方道
- 県道等
- 新幹線
- J R線
- 私鉄線

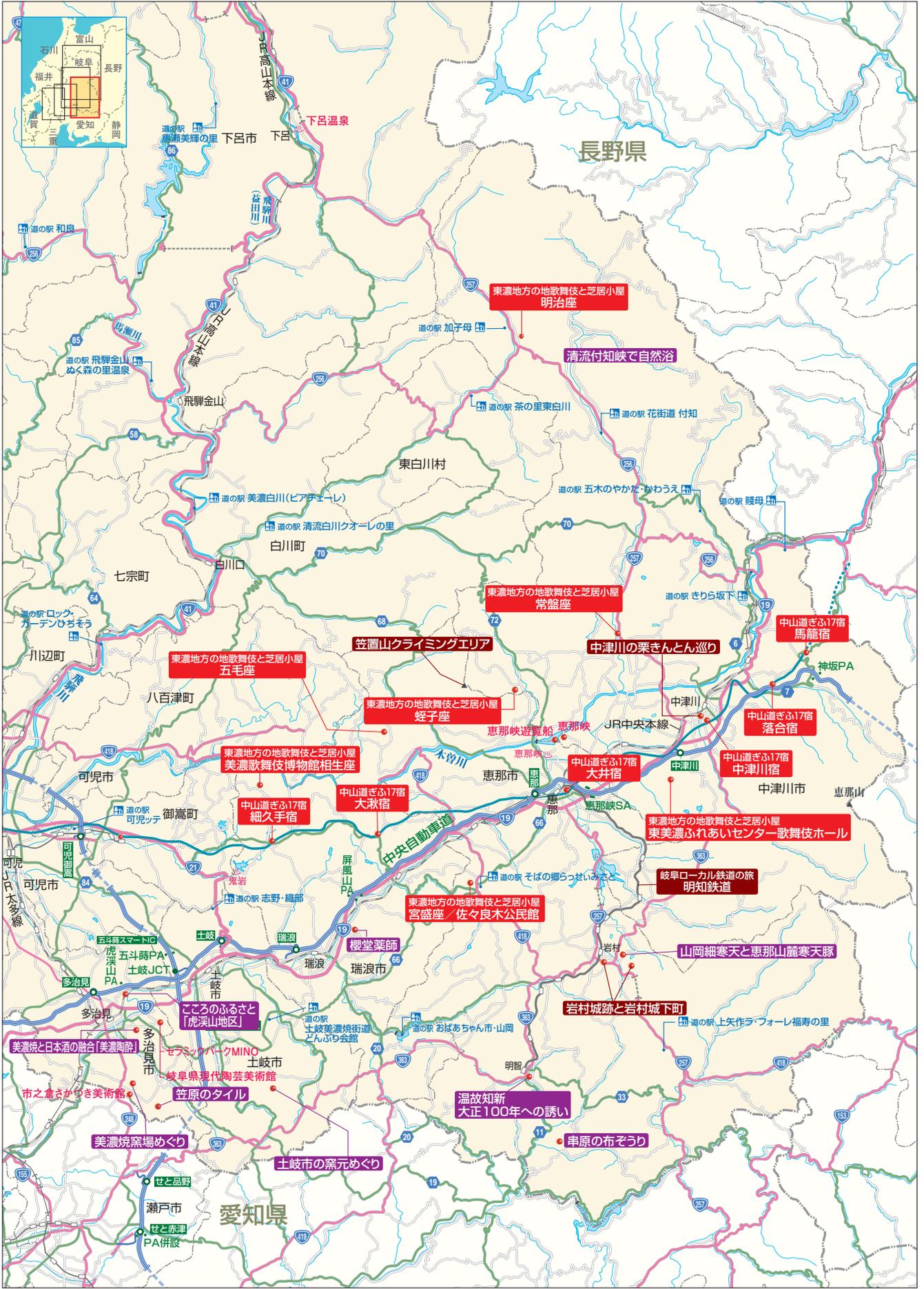


—— 高速道路   
 —— 有料道路   
 21 国道   
 87 主要地方道   
 県道等   
 新幹線   
 JR線   
 私鉄線

# 中濃エリア

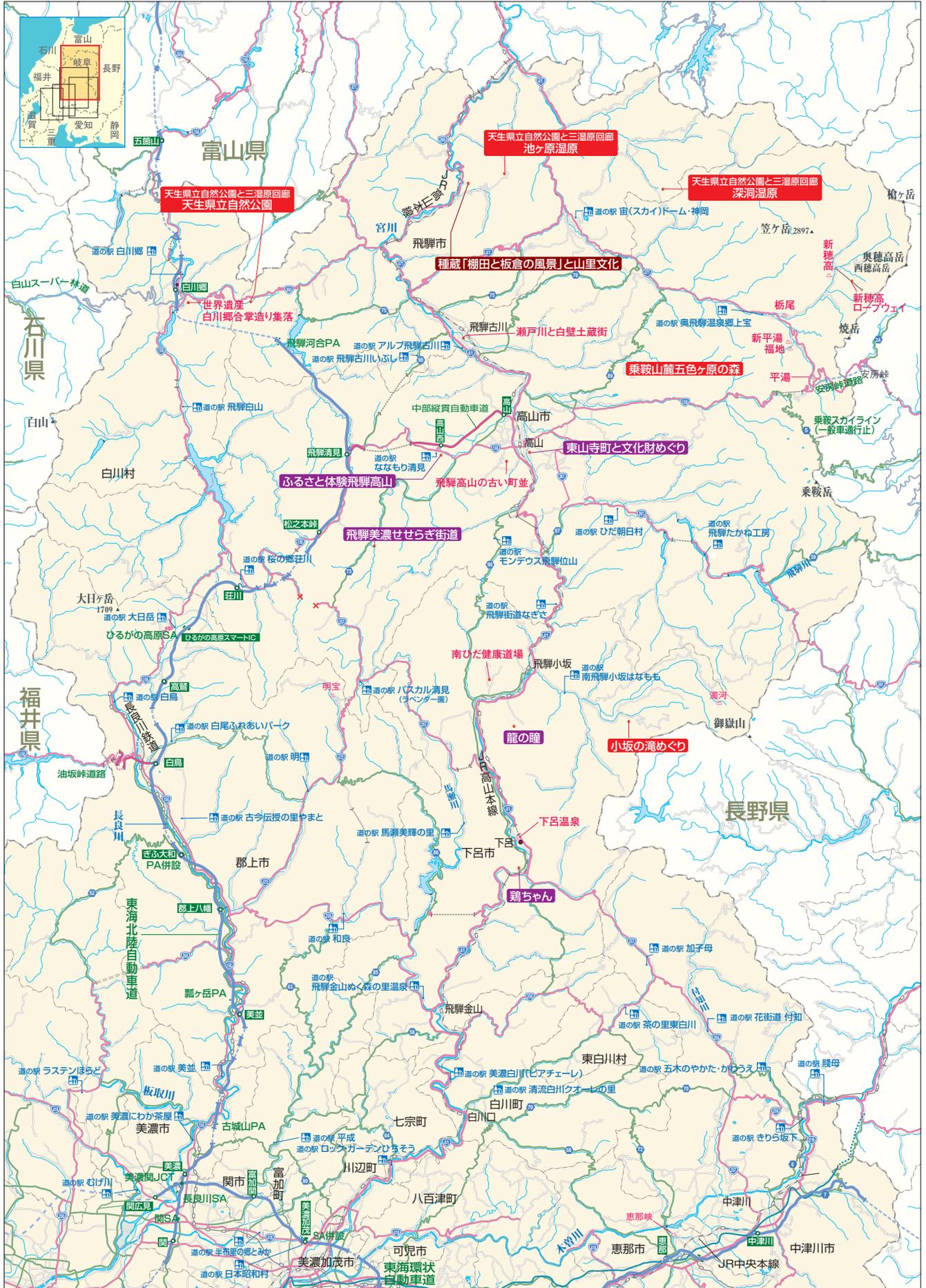


- 岐阜の宝もの
- 明日の宝もの
- じまんの原石
- 🚉 道の駅
- 中山道
- ♨️ 温泉



—— 高速道路   
 —— 有料道路   
 21 国道   
 87 主要地方道   
 —— 県道等   
 —— 新幹線   
 —— JR線   
 —— 私鉄線

# 飛騨エリア





中山道赤坂宿まつり(大垣市)

岐阜  
旅STYLE  
GIFU WELLNESS TOURISM

## 岐阜県

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1 岐阜県庁  
TEL 058-272-1111(代)